

Taro's English Study Series. No. 1.

太郎の英語研究叢書卷一

TARO'S ENGLISH LETTER-WRITING.

今井信之著

太郎の英語の手紙

東京 英語研究社



181-386

はしがき

1. 初學者向のやさしく書こなした英語研究書類は此頃世間に類が少くない、併し大抵のものは苦い藥の上に糖衣をかけたやうなもので、嚙占めればやはり苦味が出る。本書は藥の効力を失はぬ程度で全然其苦味を取去つたもので而かもこれを適當に鹽梅した藥物のうちに加へた、そして讀者がこれを味ふて行くうちにキリツキリツと急所々々に利くと云ふツント自信を以て書いたものである。

2. 本書の讀者は先づ「太郎の試作」を讀む前に「太郎の索出した難語難句」に依り、自身一文を認め、後ちこれを「太郎の試作」と較べ自他の優劣を考へ若し「太郎の試作」中に誤謬若くは不穩の點あらば遠慮なくこれを訂正し又若し讀者自身の試作中に「太郎の試作」によりて學ぶべきところあらばこれを採りて足らざるを補ひ、扱「先生の批評と作例」を見られたいのである、物語が面白いからと云ふのでズーツと棒讀みに讀んで行かれたのでは本書著述の目的に反するのである。

著者識

太郎の英語の手紙

《前編》

第一章

1. 太郎の初手紙

太郎は豊頬紅顔の美少年、目下中學の三年級で英語は彼れが嗜好學科の一である、が太郎はまだ英文の手紙を書いたことがない。

いつか折があつたら英文で手紙を書いて見やうと考へて居るうち太郎の讀んで居る教科書中にフト見出したのは Mary's First Letter (メリイの初手紙)と云ふ章である、Mary と云ふ少女が阿母さんに出した最初の手紙はといふとこうだ

Dear Mamma,

I love you.

Mary.

何と簡単明瞭な手紙ではないか、そして此短い文句のうちにも千萬無量の情味を含んで居るではないか。

「これだナ！」と伶俐な太郎は窃かに會心の笑を洩した。

太郎の先生が前記の手紙を講述の際英語の手紙について説明せられた要點はかうである、英語の手紙には

- (1) 先方の名を最初に認める、位置は上端の左方である。
- (2) Dear (親愛なる) といふのが丁度日本語の「様」に當る、ダカラ Dear Mamma は「母上様」だ、同じ筆法でも前の従弟の「三郎君」へ手紙を出さうと思へば Dear Saburo だ、従妹の「花ちゃん」のところへやるには Dear Hana だ。
- (3) Dear..... と先方の名を書いたら comma (,) で切れ。
- (4) 英語の手紙は中身は簡単で日常談話をする通りがよい。
- (5) 終りに自分の名を下端の心持右へ寄せて認めよ。

此筆法で行けばよいのだ、サア書かう、英文で手紙を、併し何がよいだらう、事柄は.....?

2. 手始は「謹賀新年」

待てッ！ 一と二ッ三イと三つ寝ればお正月だ、皮切りに「謹賀新年」は目出度い、そして先方は従弟の三郎さん、ウンとハイカットした賀状をやつて驚かしてやらう、オットよしよし。併し、宛名が Dear Saburo で僕の方が Taro だが中間の「謹賀新年」は何と云ふだらう、「謹んで新年を賀す」と？ 猿臂を伸してヤオラ取卸す「和英字引」。

謹んで = respectfully
 賀す = congratulate
 新年 = a new year

ナァーンだ、譯は無いぞ、出来た出来た、此通り、

Dear Saburo,
 I respectfully congratulate
 a new year.
 Taro.

4

太郎の英語の手紙

どうだい、お手並は、早速先生の所へ持つて行つて賞められやう。

3. 太郎ギヤフン

『太郎さん、私は云はなかつたかい、英語の手紙の中身は日常の談話をする通りに書くものだ(2頁参照)と、會話で「新年お目出度う」は何ですえ、I wish you a happy New Year. そゝら知つてるぢやないか、其儘がよいんだよ』

Dear Saburo,
I wish you a happy
New Year,*
Taro.

*new year は大文字でも小文字でもよい!

『よいかね太郎さん、日本語では「謹賀新年」と鹿爪らしく云ふが英語では I respectfully congratulate a new year 杯とは云ひませんよ、次の事を呉々も忘れず覚えておいて下さいよ。

☞ “英語の手紙は談話の儘を寫すべし”

4. 日附と住所

太郎の先生は「日附と住所」の事を附加へて説明された、要點はこうだ。

- (1) 「日附」は手紙を出す時の日附である、一月一日に出す手紙は January 1st と書く。
- (2) 「住所」は手紙を出す人の住所である、「東京本郷」に住んで居れば Hongo, Tokyo と書く。
- (3) 「日附」も「住所」も二段に分けて手紙の上部右端に稍小さめに書く。

前節に書いたものに此「日附」と住所を加へれば立派なものになる、即ちこうだ。

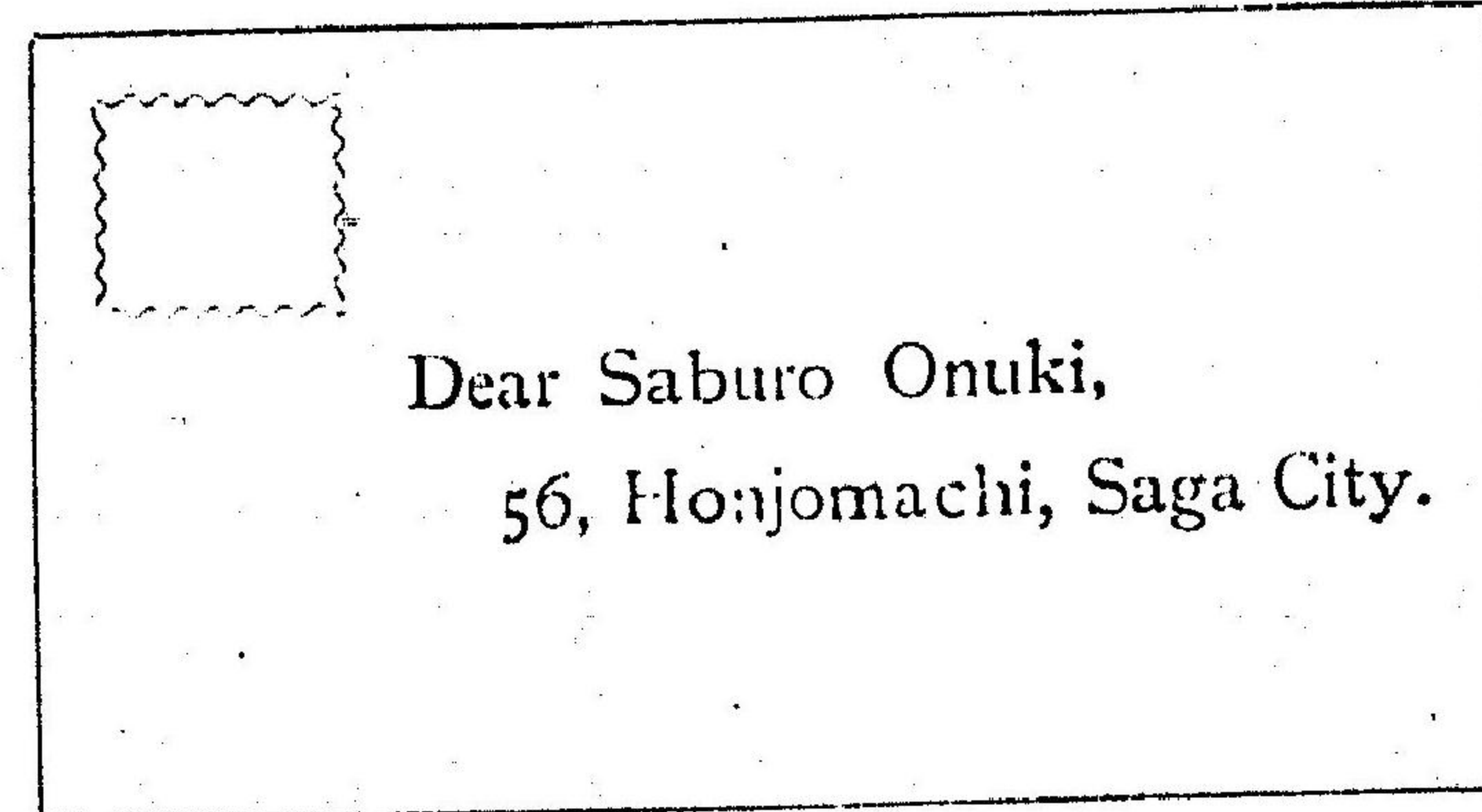
January 1st.
Hongo, Tokyo.
Dear Saburo,
I wish you a happy New Year,
Taro.

但し January と云ふ字は長いから簡単を尊ぶ手紙にはこれを略して Jan. とすればよい、十二月の名は凡て次のやうに略するのだ、こう云ふ事は太郎のやうな初學時代に記憶して置くべきだと先生が太郎に示されたのは次の如くである。

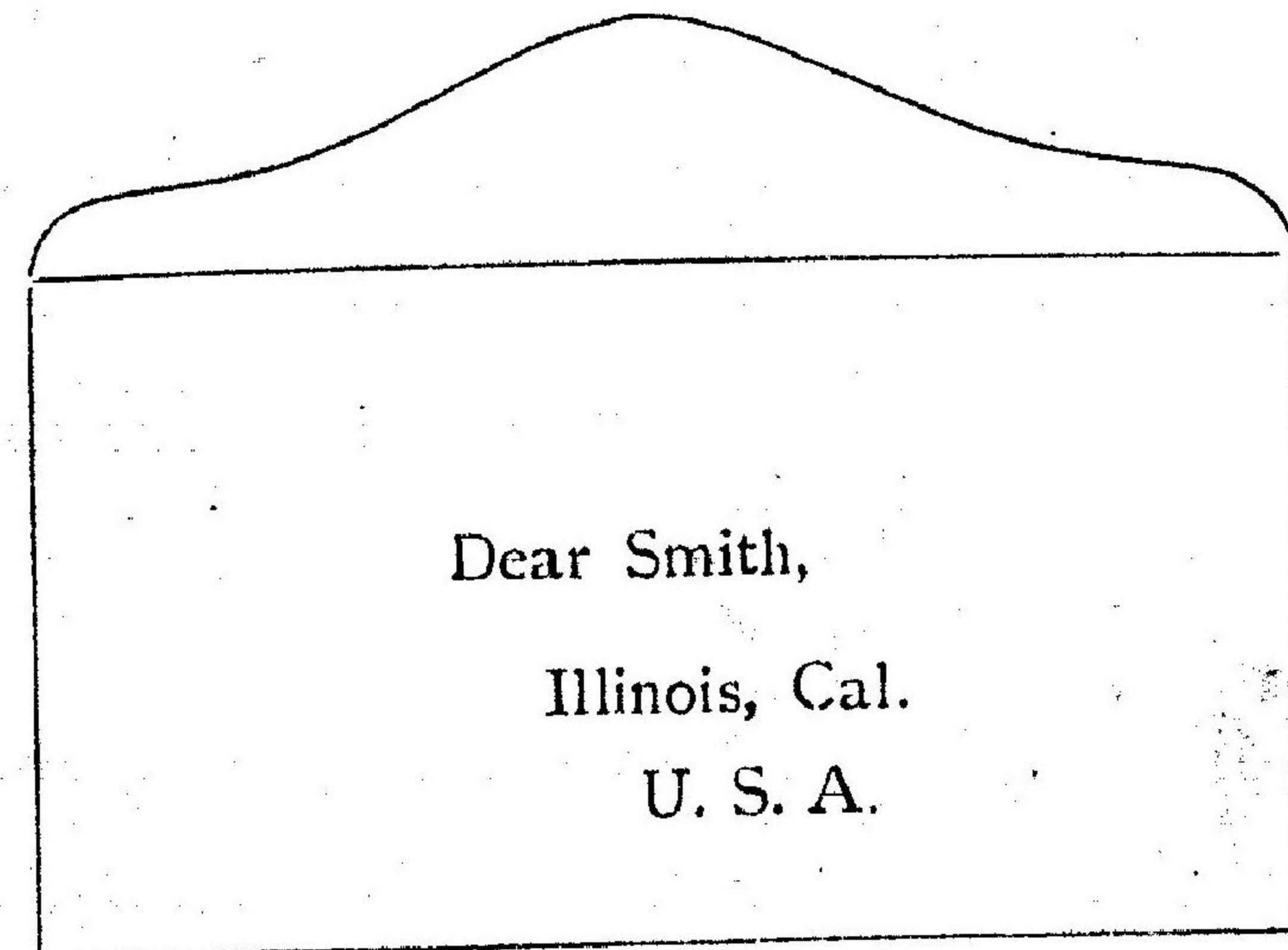
Jan. = January	July = (同上)
Feb. = February	Aug. = August
Mar. = March	Sept. = September
Apr. = April	Oct. = October
May = (略字無し)	Nov. = November
June = (同上)	Dec. = December.

5. 端書か封書か

折角出来上つた手紙、封書で出さうか端書にしようか、どちらも無経験だ、三郎君へやるのは端書、スミス先生へは封書にしよう、しかし封書にしる端書にしる其上書はどう書くだらう、先づ「三郎君」は「佐賀市本庄町五六、大貫三郎」だから



去年迄學校で會話を教授されたスミス先生はツイ先達歸國して「米國カルホルニア州、イリノイ」で手紙は届くと聞いたから



どうだらうこれで、又先生に油をとられる事かしらんと内心ピクピクもので先生のところに行く。

6. Mr. と Mrs. と Miss

『太郎さん、大出来だ、名前の書方から先方住所の位置まで申分がない、此通りに書けばよいのだ、が一つ玉に疵と云ふものがある、それは外でもない』と太郎の先生が語られた要領は次の如くである。

- (1) Dear..... と云ふのは手紙の中身の「.....様」に當るけれども上書に Dear..... はいけない。
- (2) 上書の際には Mr. と云はなければならぬ、(尤も中身でも Dear Mr..... と書く時もあるが親愛な間柄にはこれを略す、併しスミス先生の方には Dear Mr. Smith とすべきだ)。
- (3) 先方が男なら Mr. だが、夫人なら Mrs. 令嬢なら Miss と云はねばならぬ、日本では何でもかても「様」だが英語はこういふ風に Mr. と Mrs. と Miss と三つあつて其用途がそれぞれ違ふ。

- (4) Mr. は Mister の省略 Mrs. は Mistress の略字であるから共に (.) を附せねばならぬ、しかし Miss に (.) は不要だ。
- (5) Cal. は California の略で U. S. A. は The United States of America の略であるが、こういふ風に地名は多く略されるものである、重なるものを次に掲げやう、これは全部記憶して置く必要は勿論ない、必要に応じて此頁を繰返して見ればよいのだ。

合衆國の地名

- Ariz.=Arizona (アリゾナ)
 Ark.=Arkansas (アカンサス)
 Cal.=California. (カリフォルニア)
 Colo.=Colorado. (コロラド)
 Ct.=Connecticut. (コネチカット)
 Del.=Delaware. (デラウェア)
 Fla.=Florida. (フロリダ)
 Ga.=Georgia. (ジョージア)
 Ia.=Iowa. (アイオワ)

- Ill.=Illinois. (イリノイ 或はイリノイズ)
 Ind.=Indiana. (インディアナ)
 Kas.=Kansas. (カンサス)
 Ky.=Kentucky. (ケンタッキー)
 La.=Louisiana. (ルイージアナ)
 Mass.=Massachusetts. (マサチューセツツ)
 Me.=Maine. (メーン)
 Mich.=Michigan. (ミシガン)
 Mo.=Missouri. (ミゾーリ)
 Mont.=Montana. (モンタナ)
 Neb.=Nebraska. (ネブラスカ)
 Nev.=Nevada. (ネバダ)
 N. C.=North Carolina. (ノースカロライナ)
 N. Dak.=North Dakota. (ノースダコタ)
 N. H.=North Hampshire. (ノースハンブ
 シア)
 N. J.=New Jersey. (ニュージャージー)
 N. O.=New Orleans. (ニューオーリアンズ)
 N. Y.=New York. (紐育)
 O.=Ohio. (オハイオ)

- Or.=Oregon. (オレゴン)
 Penn.=Pennsylvania. (ペンシルヴェニア)
 Phil., Phila.=Philadelphia. (フィラデルフィア)
 S. C.=South Carolina. (南カロライナ)
 Tex.=Texas. (テキサス)
 U. S. A.=The United States of America. (北
 米合衆國)
 Va.=Virginia. (バージニア)
 Vt.=Vermont. (バーモント)
 Wash.=Washington. (華盛頓〔米國首府〕)
 Wis.=Wisconsin. (ウイソコンシン)
 Wyo.=Wyoming. (ウアイオミング)

英領の地名等

- B. C.=British Columbia. (英領コロンビヤ)
 C. P. R.=Canadian Pacific Railway. (加奈陀
 太平洋鐵道)
 E. C. (London)=East Central (Postal District)
 (倫敦中央東部郵便區)
 E. I.=East Indies. (イーストインデイス)

N. F.=Newfoundland. (ニューファウンドランド)

N. S.=Nova Scotia. (ノーススコシア)

N. S. W.=New South Wales (ニューサウスウェルズ)

O. (Canada)=Ontario. (オンタリオ)

W. C. (London)=West Central (Postal District) (倫敦中央西部郵便區)

尙此外の字は原書の字書に付いて居る略語表を見れば解りますよ。

7. 手紙の書き方

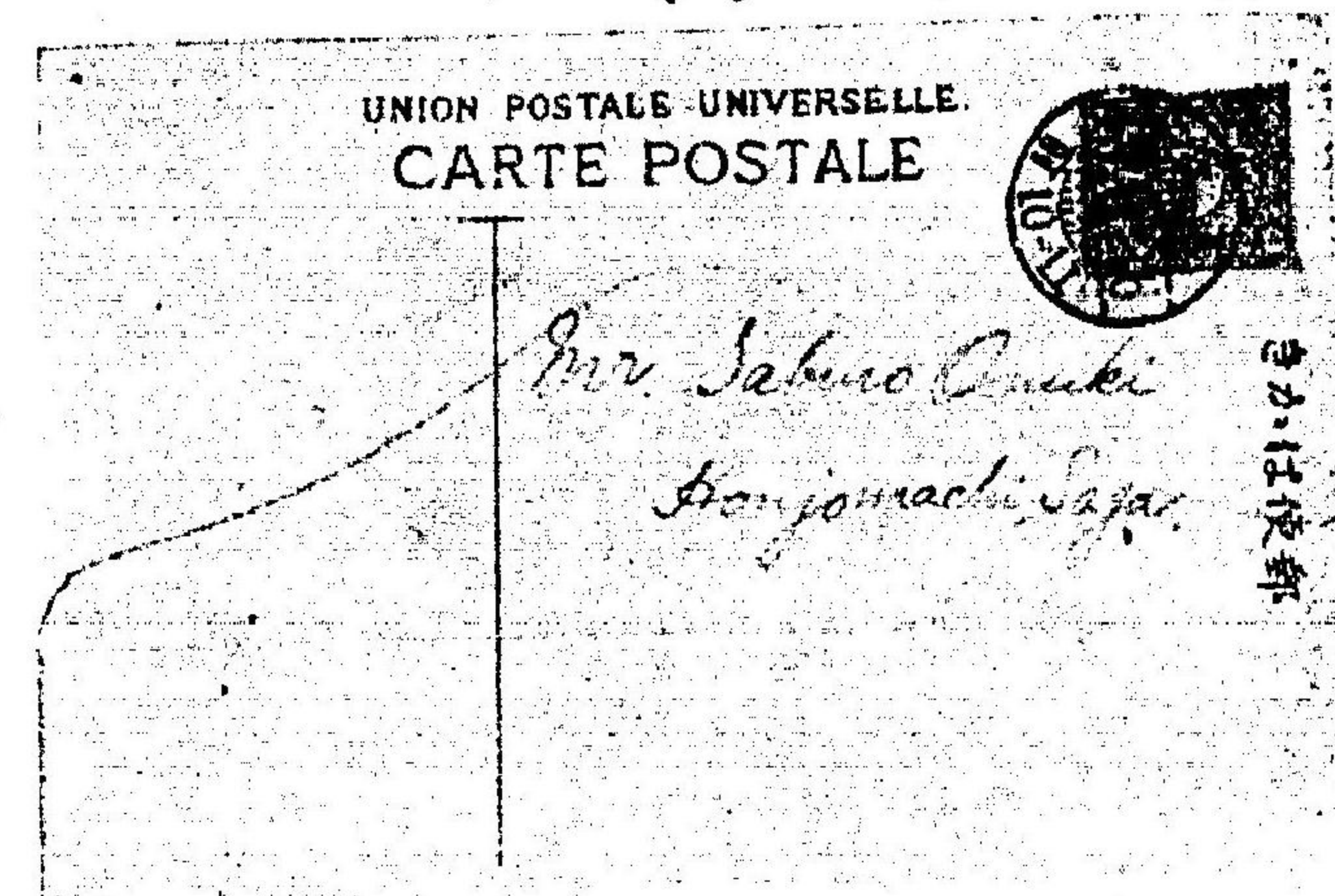
『さアこれで中身も上書も完全した、サア太郎さん先生の前で腕を揮つて書いて御覧なさい、「三郎さん」への端書の方から先きへ、オヤオヤこれは書葉書だ、書の上へ字を書いちゃアいけませんよ、左の上隅がよからう、二行で上るから

(A)



結構々々、表面はこうだ

(B)



扱これからスミス先生の方だ、これにはレタペーパーと云ふのを買つて一モウ来たのかね文房具屋で、結構々々これでよい、メリイの手紙と同様の位置でお書きなさい。

Jan. 1, 1912.
Kanda, Tokyo.

Dear Mr. Smith.

I wish you a happy
New Year.

Taro.

Mr. Smith
Illinois, Cal.
U. S. A.

8. Dear Sir と Yours truly.

『太郎さん、マダ安心をしてはいけませんよ、肝心なことを忘れて居るんだよ、ちらすんぢやないが徐々に説いて行かうと思ふのだから。』

これは外でもないが日本の「拜啓」と「早々頓首」に當ることだよ』と云ふて先生のこれについて説明せられた事の要點は次の如くてある。

- (1) 英語の手紙で稍儀式張つたものには文中に人の名を Mr.— と呼かけずに Dear Sir を用ひる。
- (2) スミス先生への手紙は弟子から師へ上げるのだから三郎さんへやるものよりは一層謹んだ口調を用ひねばならぬのは勿論だ、だから Dear Saburo の流儀で Dear Mr. Smith ではどちらかと云へば先づ失禮だ、デ此時に先方の名を呼ばずに Dear Sir と云ふ (若し先方が婦人なら Dear Madam だ)
- (3) それから邦語の「早々頓首」や「恐惶謹言」に當る結び文句も謹んで書く手紙には

略すことを得ぬ、英語の「早々頓首」や「恐
惶謹言」で最も普通なのは

Yours truly

Yours sincerely

Yours affectionately

で弟子から師へやる手紙なら Your pupil
と云ひ低い地位に居る者から高い地位に居
る人にやる時には Your obedient servant
など云ふ。

9. いよいよ出来上り

サアいよいよ出来上つた、インキをこぼさぬ
やう指痕の付かぬやう注意してお書きなさい。

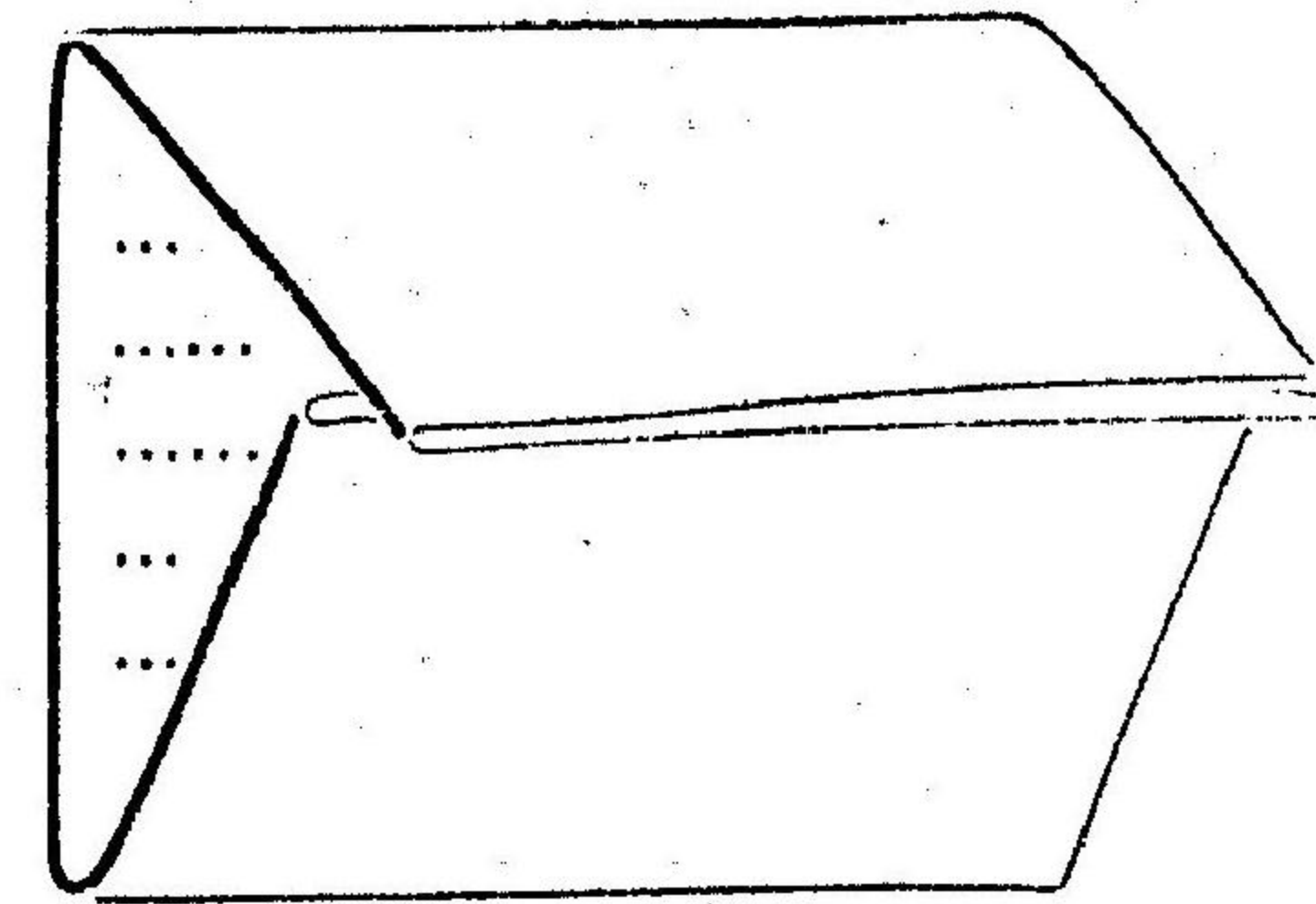
Jan. 1st, 1912
Kanda, Tokyo.

Dear Sir,

I wish you a happy
New Year.

Yours truly,
Taro.

扱書いたのは三つに疊んで



封筒の大きさに合ふやう、周圍に隙間の出来ぬ
やうキツチリ入れて封をして、封筒の上書はさ
つきの通りてよいから封が出来たら左端上部に
十錢の切手（外國行封書は十錢、端書は四錢）を
貼つて投函爲さい。

10. 「謹賀新年」のいろいろ

あまり太郎さんの成績がよいから御褒美に
「謹賀新年」所謂賀状のいろいろを示しませう。

I wish you a happy New Year.

Allow me to wish you a happy New Year.

A Happy New Year to you.

Permit me to offer my sincere felicitation upon the advent of New Year.

又繪葉書杯の端に簡単に New Year's Greetings など、書いて送る西洋人もある。

第 貳 章

1. 太郎の観梅

梅の便りがポツポツある、幸ひ明後日は日曜日、音に名高い蒲田へ探梅と洒落やうか、誘ふ友は誰れ？ 東片町の中村、そして誘引状は英文、さうださうだ。

文案は先づ邦語で立てやう。

前略	蒲田の梅花満開	の由、来る日曜日	同所へ散策如何	に候哉、御誘ひ申	上候 草々	二月十日、日出太郎	中村次郎君
----	---------	----------	---------	----------	-------	-----------	-------

住所と日附は「謹賀新年」の時に覚えて置いたからモウ確かだ。

Kanda, Tokyo

Feb. 10th.

とこれていゝんだ、親密な間柄の中村へやる手紙に Dear Sir は要るまい、Dear Nakamura とぶつけに云ふていゝに違ひない。

Kanda, Tokyo

Feb. 10th.

Dear Nakamura,

.....
.....

オヤオヤ後が出て来ない、チェースト！又しても和英字典の御厄介か、實際僕は何時になつたら字引を手放すことが出来やうかしら、先づ和英字引で索出した語句を次に持出して見やう

前=previous 略=omission 梅=plum
満開=in full bloom 由=I hear 来る
日曜=next Sunday 同所へ=to the same place
散策=take a walk 如何に候や=will you not.....?

2. 太郎の試作

「前略」に previous omission はわれながら可笑しいやうな気がするナ、「前略」とは前文を略すの意だから omission of the previous phrases としやうか、イヤイヤ omitting the previous phrases の方が切出しの文句にやアよからう。

Kanda, Tokyo
Feb. 10th

Dear Nakamura,

Omitting the previous phrases,
I hear the plum in Kabata is in full
bloom now. Will you not take a
walk to the same place next Sun-
day?

Yours truly,
Taro.

われ乍ら旨く出来たぞ、先生のお宅へ行つて
批評を仰ぐことゝしやう哩。

3. 試作の訂正

先生は稍苦(=ガ)い顔をされて太郎に諄々と
教へられた要點は次のやうである。

- (1) 日附と住所に間違はない。
- (2) omitting the previous phrases とは日本人ならばこそ察しも付かうが先方が西洋人では丸で解らぬ文句だ。
- (3) 英語の手紙は常に「前略」だ、日本の手紙のやうにくだくだしい前置文句を云はない、従つて「前略」と云ふ文句もない、omitting the previous phrases などは皆 omit して了つてよいのだ。
- (4) plum とは「梅の實」のことだ「梅の實が満開」とは可笑しいぢやないか、これは plum-blossoms とか plum-flowers とかしなけりやいかぬ、(實を結ぶ花は通例 blossoms と云ふから plum-blossoms の方がよいだらう)
- (5) is は are でなければいかん。

(6) to the same place は簡単に there としな
ければいかん。

訂正を経た文を太郎が書上げて見たら次の通
りであつた。

Kanda, Tokyo

Feb. 10th.

Dear Nakamura,

I hear the plum-blossoms in
Kabata are in full bloom now. Will
you not take a walk there with me
next Sunday?

Yours truly,
Taro.

第 三 章

1. 中村の誘引

「郵便ッ!」と脚夫が投出して行つた一葉の繪
葉書、差出人は中村で文句は英文、僕が二ヶ月前
觀梅誘引の手紙を英文でやつたら、やつ大變羨
しがつて「僕も早く英文で手紙を書きたい」と云
つて居たが扱は人知れぬ間に稽古をして居つた
か、手跡も鮮か文句も明瞭いづれ先生の手が這
入つたものであらうが全文は次の如くである。

Hongo, Tokyo

April 1st.

Dear T. Hinode,

They say the cherry-trees in
Koganei are in full blossom now.
Can't you go on an excursion there
with me next Sunday? If you can,
let us start early in the morning.

Yours ever,
J. Nakamura.

2. 先生の説明

先生のお宅へ中村の手紙を持つて行くと果せる哉ウント先生のお手が這入つたものと知れた、そして莞爾(ニコニコ)笑ひ乍ら先生の御説明なすつた要點は次の如くである。

(1) They say も I hear も共に「……の由」「……のさうです」の意である。

(2) cherry trees は「櫻の樹」で in full blossom は「花が満開」の意、斷つて置くが「櫻の樹が満開」ぢやない、これについては次を比較してごらん。

{ cherry-trees are in full blossom.
{ cherry-flowers are in full bloom.

以上の二通りの書方はいづれでもよい。

(3) Will you not go? と云ふ代りに Can't you go? と云ふも同意である。

(4) go on an excursion は「遠足に行く」で此時はいつも on を用ひて to とは申しません。

(5) let us は「何々しやうぢやないか」で「……か」に終るものだから初學者はよく此文の終りに (?) を附けたがるがこれは不要だ、疑問文ぢやないから。

(6) Yours ever も Yours truly 杯と同じ文句で日本の「草々」、「頓首」に當る

中村の手紙を先生の御指圖を受けながら太郎君が和譯したらこうなつた。

日出太郎君	四月一日	發仕るべく候早々	意に候はゞ早朝出	何に候や若し御同	日同所へ遠足は如	満開の由來る日曜	小金井の櫻花目下	拜啓
-------	------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----

中村ナカナカ味をやる哩、此次の日曜日と? 待てよ別に外に約束もないと、小金井の櫻狩も一風流であらう、早速英文で同意の返事を認めてやる事にしやう。

3. 太郎の返事

例の如く文案を邦語で次の通りに認めた。

中村次郎君、	四月二日	御伺致すべく候、	午前正五時までに	之候、就いては同日	の花見大賛成に有	来る日曜日小金井	拜復
--------	------	----------	----------	-----------	----------	----------	----

又々和英字典を探つて必要な文句を次に列べて見る。

拜復=in reply to your letter 花見=cherry viewing 賛成=approve 正五時=at 5 a.m. sharp 御伺=visit

Kanda, Tokyo
April 2nd.

Dear Nakamura,

In reply to your letter, I approve the cherry viewing at

Koganei next Sunday. I shall visit you at 5 a. m. sharp on that day.

Yours ever,
Taro Hinode.

4. 先生の大眼玉

「太郎さん、今度はヒドイヒドイ成績だよウツカリして居ると首席の株を中村に奪はれますぞ」と大眼玉をヒン剝いて先生のお叱言、これも弟子を思ふ師の真心、と有難く傾聴した先生のお叱言の要領は次の如くである。

- (1) in reply to your letter は成程邦語の「拜復」に似は似て居るけれどもこれは多く商業文に用ひられる形で先方の手紙を正に受取つたと云ふ意で書く文句で普通の手紙には滅多に用ひない、普通の英語の手紙には「拜啓」も「拜復」も「前略」も何もない。

- (2) I approve は何か議案でも賛成するやうだ、原文に「賛成に有之候」とあるからとて此語を其儘用ひてはいかん、原文の「賛成に有之候」と云ふのは「喜んで参ります」の意だから I shall be very glad to go の如くした方が數等よい。
- (3) cherry viewing も堅苦しくていかんね、前にも云ふた通り英語の手紙の文句は平生の談話其儘でなければいかん、依て cherry-viewing なんと云ふ堅苦しい字を用ひないで to see the cherry-blossoms と碎いて云ふ方が遙かによいのである。
- (4) visit you も別に非難すべきでもないが call on you の方が一層やさしいでせう。
- (5) これを要するに英語の手紙は成るべくやさしく素直に書かなくてはいかん。
- 先生が次の如く二様に訂正して下さつた。

A.

Kanda, Tokyo
Feb. 10th.

Dear Nakamura,

I shall be very glad to go with you to Koganei to see the cherry-blossoms next Sunday. I shall call on you at 5 a.m. sharp on that day.

Yours ever,

Taro Hinode.

B.

Kanda, Tokyo
Feb. 10th.

Dear Nakamura,

It will give me great pleasure to go on an excursion to Koganei with you to see the cherry-blossoms next Sunday. I shall be at your house at 5 sharp in the morning.

Yours ever,

Taro Hinode.

第四章

1. 太郎の進級

荷厄介な學年試験も済んだ、今度も不相變首席を占めて四年級へ進級した、常々僕の學事に肩を入れて下さる熊本の叔父さん、今度の進級は是非知らせずはなるまい、此頃は筆不精の爲め叔父さんにも暫らく御無沙汰をして居つた試験前に一度繪葉書を上げたつ切り、従妹の雪江さんも嘸かし僕を怨んで居るだらう、御無沙汰御見舞を兼ねて進級の通知旁雪江さまにもよろしくと云ふ寸法で行かう、叔父さんは第五高等學校の英語教授、御返事はどんな六ヶしいのが来るだらうか。

例に依つて例の如く太郎は邦語で文案を立て扱それから難語難句を和英字書に依つて索めたのである。

拜啓
其後は御無沙汰に打過
候段御海容下され度候
小生事今般優等にて第
四年級へ進級致し候間
何卒御喜び下され度候
雪江さまにもよろしく
四月十五日 日出太郎
御叔父上様

其後は = since then 無沙汰 = negligent to write 海容 = pardon me 優等にて = with honour 第四年級 = the 4th year class 進級 = promoted 喜び = be delighted よろしく = remember me to

2. 太郎の試作

「其後は御無沙汰に打過申候」は頗る僕を惱ませることゝ思ふたら僕の和英字典で busata を引いたらチャーンと例まで I have been negligent to write to you と出て居つた哩、扱「段」は何と云ふかしら step 扱と書かうものなら又先生

の大眼玉、for か as かどつちだらう、as にして Pardon me as I have been negligent to write to you since then とこう始める、後は譯なし、オット出来た出来た次のやうに、(今回より「日附」と住所を略することゝする)。

Dear Uncle,

Please pardon me, as I have been very negligent to write to you since then. I was promoted to the 4th year class this time with honour, so please be delighted. Please remember me to Miss Yukiye.

Yours ever,

Taro Hinode.

どうだ、今度こそはいつもりだ、讀者諸君ありますか誤りが、僕はないつもりですぜ、第一冒頭の文句が我乍ら気に入つた、流石は〇〇氏の和英字典だ、痒いところに手が届くやうだ先生のところへ行つて一つ批評を仰がう。

3. 字典に依頼する勿れ

上目でジロリ、先生の顔面に表はれた天候を観察すると雲行甚だ穏かならぬ「一體どこがいけないんだらう、これが悪けりやア大いに抗議を申込むが」

「太郎さん、益々出て、益々拙なりとは貴君の英文だ、ソーラそんないやな顔をしちやアいけないよ、オーヤオーヤと氣の挫けるのが人間一番の禁物、機まず進むのが成功の一大秘訣だ、先づ氣を取直して私の云ふ事をおきいなさい、冒頭の Please pardon me, as I have been very negligent to write to you since then これからが餘りよくないネ、これは……」

「先生々々、待つて下さい、その文句は僕が大白慢の文句なので、こうなりやア申し上げますが其後(アト)の方は實は和英字典に出て居つた句なのです、ソーラ御覽なさい、busata と云ふ所にあるぢやありませんか、此頃一番評判のよい和英字典に出て居る事によもや間違はあります

まい、先生失禮ですが考直して下さい」

「ハ、ア、イヤ尤も、これは文の巧拙の話になるから單にうまいまづい丈では君のやうな初學者には失禮ながらまだ解るまいが三年四年の後願くば私の今訂正するところと君の和英字典で探出したところとを比較して其巧拙を判じて下さい、私は決して我を通して人の物は悪い我が物は何でも善いとは云はぬつもりだ、扱てそれでおや、

Pardon me as I have been my negligent to write to you since then

はどう訂正するかと云へばこれはあまりくどくどしいから御無沙汰云々事を long silence と云ふに依つて

Pardon me for my long silence

ところ簡単にするのだ、以下は……」と先生の訂正された要點は次の如してある。

- (1) I was promoted は I have been promoted と文典で所謂 present perfect の tense に改める、その理由は「今回」と云ふうちに

は present を含むこと明かであるからで此事の委しくは文法研究の際に致しませう。

- (2) そして this time をトツて了ふ、即ち have been を用ふれば this time がなくても「今回」の意がどこかに表はされて居ると云ふ事を考へよ。

- (3) with honour は with honours としなければならぬ、「名譽」と云ふ意の時には honour は單數であるけれども with honours 「優等の成績にて」ての時にはいつでも honour は s を附するのである。

- (4) so please be delighted も悪いことはないが、「喜んで下さい」と原文にあるからとて必ずしも be delighted と云ふやうに命令文であらはずともよいだらう、これは寧ろ you will be delighted to hear とした方が一寸考へれば原文に悖るかも知れないが英語としては自然な言方だ

- (5) Miss Yukiye といふよりも雪江さんが従妹なのだから Cousin Yukiye と云つた方がよい。

(6) Yours ever といふよりも呼かけが Dear Uncle だから結び文句も your nephew (貴君の甥) と云ふやうにする方がよい。そして先生は次の二様に訂正して下さつた。

(A)

Dear Uncle,—Pardon me for my long silence. You will be delighted to hear that I have been promoted to the 4th year class with honours. Remember me to Cousin Yukiye.

Your nephew,
Taro Hinode.

先生は前に negligent to write to you なる文句をけなしたがこれも使ひやうに依つては悪くないと云つて次のやうな書方を示された

(B)

Dear Uncle,—Pray pardon me for my long negligence to write to you. You will be glad to hear that I have been promoted to the higher class with honours. Give my best and kindest regards to Cousin Yukiye.

Your nephew,
Taro Hinode.

(B) の例で Give my best and kindest regards は remember me to と同じく「によろしく御傳言被下度候」の意でこれらは一括して覚えて置く方がよい。

4. 叔父の返事

あつたあつた、果せる哉叔父さんの返信は英文で、馬鹿にハイカラな状袋(エンゲエロツプ)だナ、熊本邊にもこんなハイカラな物があるんだらうか、オヤオヤ中を開けて見たら見るも優しい女文字、水莖の跡細々と心の底から喜びを英文で書いて来たナ Your cousin, Yukiye とあるからにやア文案は叔父さんで署名者は雪江嬢と極まつたり、さるにても見事な手蹟、雪江さんはまだ大きな蝶形のリボンを頭の頂上(テッペン)に結んだ十を越すこと一つか二つの少女なんだ、それが此能筆、アツと驚いて物が云へぬ哩、イヤイヤ雪江さんの能筆を感心して居つてばかり居たぢやアすまない、中を讀んで見やう、エートこうだ。

Dear Taro,—You^r uncle, aunt and myself are all very glad to get the good news that you have passed your annual examination with honours. Still I heartily hope you will continue to study as hard as ever.

Your cousin,
Yukiye.

5. 手紙の和譯

先生を煩すまでの事はない、僕一人で和譯の方なら出来る、先づ第一 you^r uncle, aunt and myself はいいな、兼々聞及ぶ英語では自分の事は一番後で云ふのだと、これも其筆法だナ、I and you と云はずに You and I と云ふのと同じ場合だナ。

to get the good news とは「佳き便りを得て」の意ならむ、僕だと單に to hear 位に書くのを流石に叔父さんの文案だけある哩。

have passed the annual examination with

honours は「優等で學年試験を通過した」をこちらで have been promoted to the 4th year class として置いたら先方でも同じ文句を用ふるのもと思つて文句を變へて云ふたところだナ。

Still I heartily hope you will continue to study as hard as ever. 「さわれ尙益々引續御勉強あらん事を希望致し候」だナ、一つ全文を次に譯して見やう。

太郎様
御許へ

一筆染し申上候、御前
様に及第の優等、親て始
年試及第一回由兩に學
せまて一目出度び居申
め、得て此後喜も益々
候、されど此後程も希
、さす、御勉強の御望
致し、先づかはし祝
であら、

どうです和譯は旨いてせう。

第五章

1. 太郎の病氣

梅雨の頃には兎角病人が多い、太郎も typhoid fever 「腸チブス」と云ふ有難くないものにとッつかれて、家族多い人数の家では思ふやう療養も届かずとあつて入院をしたのは〇〇病院の第〇室第〇號、醫師の投薬で思つたよりは癒期が早い、モウ床の中で新聞や雑誌の軽いもの位は讀む事を許された。

それにしても二週間許りの缺席、學校の方はどうしたかしら、懐かしい中村や其他の友は如何したらんなど思つて居るところへ突然看護婦の齎らす一封のレター、取る手遅しと聞いて見ればハイカラなレターペーパーに書きも書いたり病氣見舞の英文の手紙、差出人は云はずとも親友の中村次郎！内容は次の如してある。

Dear Friend,

I am sorry to hear that you are ill. How are you now? I hope you will soon be well again.

Yours ever,

Jiro Nakamura.

P. S. Can I call on you at the hospital? J. N.

エ、人生病程いやなものはない、僕の休學一週間は何か一年二年に當るやうぢやないか、此間の中村の進歩、僕の知らない文句まで用ゐた此手紙、チエーツ又しても味をやり居つた哩。

2. 先生の見舞

「あのお客様ですよ、日出さん」と看護婦の差出す名刺は正しく先生、ヤレ丁度よいところに助け船、どうぞこちらへと看護婦に導かれて這入つて來た紳士は懐かしの太郎の先生、見舞

の文句の終らぬうちに太郎の差出したは今し彼の受取つた中村の手紙。

先生、Dear friend と呼かけてよいものですか、そして Yours ever で結びおまけに僕に解らない此 P. S. とはなんでせう、J. N. とは Jiro Nakamura てせうか」と矢継早の質問に先生の答の要領は次の如してある。

- (1) 友人間の通信では勿論 Dear friend と呼びかけ Yours ever で結ぶのは有勝ちのこととて此形式はよく記憶して置くべきだ。
- (2) I am sorry to hear that you are ill は I am surprised to hear of your illness 杯と云つてもよい、要するに邦語の「御病氣の由承り驚入り申候」位に當るのである。
- (3) How are you now? は「目下の御容體如何に候や」てこれを What is your present condition? 杯とするのは愚の極である。
- (4) I hope you will soon be well again. て well は「全快」の意である、「全快」と邦語にあればとて recover completley 杯と六ヶしく云ふには當らぬ。

- (5) P. S. は post script の略で「追伸」「二白」に當る。手紙の本文で足らぬところを P. S. で補ふのである、それから J. N. はお察しの通り Jiro Nakamura の頭字で「追伸」「二白」の場合には通例此略字を用ふるが P. S. てない折に用ゐてはゾンザイに當る。

「サア太郎さん、此度は此返事をやると云ふ段取りだ、併し病後の勉強は毒、醫者の許が出たら少し計りづゝ書いて見て御覽、日曜の朝に又御見舞に来るから其時出来て居たら直して上げませう」。

3. 太郎の返書

太郎は有名(ナウテ)の氣早もの、江戸ッ兒が竹庵先生の云ふ事なんか聞いて居られるもんけいと、モウ泣の涙で一時の凌ぎに注射をして貰つた事を忘れたのである。

早速書きたいな例の通り、日本語で文案、併し先生はなるべく早く日本語で文案を立てずに直に英文が書けるやうになれと、併し初からそれは無理だ。

中村次郎君、	く	ら	快	お	難	早	拜
	と	ず	方	蔭	有	速	復
	存	全	に	を	御	御	
	候	快	赴	以	禮	見	
	草	致	き	て	申	舞	
	々	す	遠	日	上	被	
日出太郎	々	べ	か	々	候	下	

又もや取出す和英字書は太郎の身嗜み、索出した文句は

早速= speedy 又は prompt 見舞=enquiry
 難有御禮= Many thanks お蔭を以て= by
 your favor. 日々快方に赴く= daily getting
 better. 遠からず= before long.

以上を合せて次のやうなものが出来上つた。

Dear friend,—Many thanks for
 your prompt enquiry. By ^{your} favor,
 I am daily getting better, and I trust
 I shall be well before long.

Yours ever,
 Taro Hinode.

4. 先生再度來訪

先生が太郎の試作を見て先づ病中の作として成績のよいことを賞賛され扱訂正の時に例の通り諄々と太郎に教込まれた要點は次の如くである。

(1) 先づ「早速御見舞被下」に對し for your prompt enquiry の prompt も結構は結構だがこれは寧ろ kind に改め「親切なる御見舞に對して」とした方が稍優る、又 enquiry のみでは些か不備であるから letter of enquiry「見舞狀」と爲す方がよい、即ち冒頭を Many thanks for your kind letter of enquiry とする。

(2) 「お蔭様」に對する by your favor は全然不用な文字である。先方が醫者かなんぞならばともかくも友人同志にお蔭様も何もない、病氣の癒るのは自然と醫藥の効で癒つたので看護もしてくれぬ友人にお蔭様とは英語では理窟上許さぬ言方である、日本

ては試験に合格しても「お蔭様で及第しました」と云ひ、娘が嫁めに行ても「お蔭様で良縁を得ました」杯と云ふ、これらはホンの習慣上の言方で英文にこれを譯してはいかん、太郎さん、耳にタコが入ったでせうか、モ一度申上げて置きます。日本の手紙の冗文冗句は英文の手紙では全然省略すべきである。

- (3) I shall be well before long の well は此場合差支はないものゝ何となく力の足らぬ心地がするから all right (全快) に改めて I shall be all right before long とする。

例に依つて先生の二様の訂正文は次の如くである。

(A)

Dear friend.—Many thanks for your kind letter of inquiry. I am glad to say I am daily improving and I trust I shall be all right before long.

Yours ever,
Taro Hinode.

(B)

Dear Friend.—Thank you ever so much for your kind letter of inquiry after my illness. I am happy to say that I am daily approaching recovery and trust I shall soon be restored to health.

Yours ever,

Taro Hinode.

P. S. Come to see me at any time you like.

(B) の話で daily approaching recovery は「日々快癒に近づく」で restored to health は「全快」である。

第六章

1. 太郎の書籍注文

病氣も豫定以上に早く癒つた、倍舊の勉強をして失ふた時間の取返しをしなければならぬ、それは豫々先生から承つて居たデホーのロビンソンクローソー、あれは世界的の著述だから是非一讀して置くべきだが三年級では六ヶしい四年級になつたらと先生から云はれて居たからモウよからう、小川町の英語出版社(假名)、あそこには Dr. Sweet (假名) と云ふ人の註釋のついたロビンソンクローソー絶島漂流記が来て居たと聞いた、ツイ目と鼻の先きではあるがあそこでは支配人から小僧のはしくれに至るまで英語が解ると聞いて居るから何にも練習だ、一つ英語で書籍の有無と代價や郵税を聞合せやう、好奇と笑はゞ笑へ、これも英語研究の一法ぢやないか。

先づ例に依つて文案を邦語で立てやう。

英語出版社御中

日出太郎

前略
小生事スキート博士脚
註付ロビンソンクルー
ソー一部買求め度と存
候が右は貴店にお持合
せに候やもしあらば代
價郵税共御一報被下度
候

2. 太郎の大苦心

イヤこれは六ヶしい、實に實に六ヶしい、今迄の「謹賀新年」や「病氣見舞の返事」杯とは丸で毛色が違つて居る哩、これらは所謂商用文といふものゝ範圍に屬するのかしら、何にしても手が着けられないやうな氣がする哩、ツイ近所に住んで居る淺野四郎君は目下早稲田實業に通つて居て英語の實務文の方は御得意であると平生から聞いて居るが淺野の所へ行つてそれとなしに商用文とはどんなものかを聞いて来てそれから手をつけることにしやう、今夜は幸ひ土曜日、サアこれから淺野を訪問しやう。

3. 學友の談話

「商用文かい僕の學校では盛んにやつて居るよ」と淺野は太郎の話に釣出され尙次の如く語りつづけたのである、「先づさね、商用文では大抵宛名が商會や會社だらう、だから宛名からして Dear Mr. —— ぢやないんだよ、丁度日本で云へば「丸善株式會社御中」とか「三井銀行御中」とかの「御中」に當るのが Gentlemen と云ふのだよ、ソウソウ「紳士」と云ふ字の複數サ、先づね「丸善株式會社御中」なら始めに Messrs. Maruzen & Co. と書いて——オイオイ途中で聞いちやア困るね、何 Messrs. は Mr. の複數サ、そして商會には Messrs. を附するんだよ、& Co. は and Company の略字で「會社」と云ふ意味だよ、——それからネ一段下げて Gentlemen と呼かけるんだよ、待ち給へこゝへ書いて見やう。

Messrs. Maruya & Co.,
 . . . Gentlemen,.....

とこうだよ、こゝ丈けさ普通の手紙と毛色の違ふところは、中身かい、さうサ中身にも商業用文には特別な言方はあるね、多少はあるけれども先づ第一の必要條件は簡單明瞭と云ふ事だよ、先生の云はれた事を其儘受賣するなんて、何だ人に物を聞いてそんな事を云ふもんぢやないよ、モ一ツ教へよう Gentlemen の代りに Dear Sirs としてもいゝんだトサ、Sirs はやつぱり複數なんだよ結び文句は違ふかつて？ 違はないよ、やつぱり Yours truly や Yours faithfully を用ひるのだよ、オヤ君モウ歸るのかい、汁粉でも振舞はうと思つたら何だか妙に急ぐぢやアないかね」。

4. 太郎の試作

歸りを急ぐツて淺野が云つたがそれも其筈、こつちは忘れないうち宅へ歸つて手紙を書かうといふ下心があるからさ、Messrs. 何々て始めて一段下げて Gentlemen か Dear Sirs を附けると、家の敷居を跨ぐときドツコイショで忘れち

やアいけない、サア書齋にはペンと letter paper が待ち構へて居る。

「英語出版社」は The English Publishing Co. だナ、そして一段下げて Dear Sirs か Gentlemen と、これで宛名はよい、ところでサア本文は不相變和英字書の御厄介か。

脚註=foot-notes 付=with 一部=a copy
買求めたく=wish to buy 持合せ=have
on hand 代價=price 郵税=postage 御
一報=please let me know 又は please in-
form me

そこで出来上つた試作は次の通り。

The English Publishing Co.

Dear Sirs,—I wish to buy a copy of the Robinson Crusoe with foot-notes of Dr. Sweet. Have you one on hand? And if so, please let me know the price and the postage.

Yours truly,

Taro Hinode.

どうだい素敵ぢやないか and if so なんと云ふ氣の利いた文句はわれ乍らアツと感服仕つたネ、早速又先生の所へ持ッて行かう」。

5. 先生は御感服

先生は太郎の英語の手紙を見て斯う云はれた、「太郎さん、今迄にない上出来だ、チャーと形が成つて居る、これはどこか一通の型を教はつて来たね、それはマアどうしてもよいとして本文のうちにはやつはりアチコチに誤謬があるやうだね、どうれ又憎まれ役に赤筆を入れて上げやうかい」と云ひつゝ先生の諄々と教を垂れた要領は大略(アラマシ)ザツと次の通りである。

- (1) the Robinson Crusoe の the は要らない、同じ書籍の名前でもこれは人の名が其書名になつて居るのだから the は不要です。
- (2) of Dr. Sweet の of はどうも不完全である、これは「著作」をあらはす by を用ひな

ければいかん、さなくば Dr. Sweet's foot notes とする。

(3) Have you one on hand? And if so,.....

は大變よかつた、これは賞めて置く。

(4) the price and the postage は少々粗雑な書方だ、初學者には稍難解かも知れないが including (「を入れ、を含みて」の意) と云ふ字を用ひて the price, including the postage とする。

(5) 太郎の試作は稍冗長の嫌があるから訂正文では文章の引締つたところに注意しなければならぬ。

先生は次の通り二様の訂正文を示された。

(A)

The English Publishing Co.

Dear Sirs,—As I wish to buy a copy of Robinson Crusoe with foot-notes by Dr. Sweet, will you kindly let me know if you have one on hand and also the price of it, including the postage?

Yours faithfully,
Taro Hinode.

(B)

To the English Publishing Co.

Gentlemen,—Will you be so good as to inform me if you have Robinson Crusoe with Dr. Sweet's foot-notes on hand? If you have, also state its price together with the postage.

Yours truly,
Taro Hinode.

(B) には As I wish to buy と云ふ比較的閑文句を省略した、そして文章を中程で二つに分けた、又 together with を including の代りに用ひたのに注意されよ。

第七章

1. 太郎林檎を贈らる

持つべきものは友だ、僕が病後の見舞として中村は郷里から送られたと云ふ林檎を籠に入れてよこした、而かもそれに附した英語の手紙、何と優しい友情、何と羨しい英文の筆跡、ゴワゴワする letter paper に書いた英文は次の通り。

Dear friend,—Allow me to present you with a basket of apples which I have to-day received from Aomori, my native place. I hope you will like them.

Your friend,
I. Nakamura.

Allow me to present you with a basket of apples. これを「林檎一籠を以て汝に送るべく許せよ」と直譯をしたら筆者の中村は泣くならう、Allow me to 何々は英語の手紙の常用文句で邦

語の「何々下されたく候」に當るとは豫々聞いて知つて居る、さすれば Allow me to present you with a basket of apples は「林檎一籠御送り致候」だ、日本の手紙なら差詰めこゝに「に付き御笑納被下度候」があるんだが please accept with a smile とはまさかに云ふまいが、何とか外に言方はないものか知ら、それから I hope you will like them とは少し訝しいな、「私は汝が彼等を好むであらう」と明治生れの僕はそんな直譯はしないけれどもチョイト適譯に苦しむナ、叶はぬ時の神頼み、先生の許へかけつけて正解を頼むことゝしやう。

2. 先生の解釋

先生の云ふのに「これは中村としては中々よく書けて居る、先づ一番始めの Allow me to present you with a basket of apples は「林檎一籠御送り申上候間御笑納被下度候」の意である、人に物を贈るときには

(a) Allow me to present you with.....

- (b) Let me offer you... ..
 (c) Please accept.....
 (d) I beg your acceptance of.....

等の言方がある、直譯をすれば皆異なるけれども意味は皆「.....差上候間笑納被下度候」に當るのである、扱 I hope you will like them であるがこれは丁度邦語の「何卒御賞翫被下度候」位に當るのである、邦語と英語と何と言方が違ふてはないか、太郎さん、英語に熟達したかどうかを知るには先づ英語と日本語の差異を解したかどうかを検して見れば解りますよ、其差異がかくも大きいものだといふことが解れば其人は英語に一進歩を來たしたものである、閑話休題、中村へいづれ返事を書くだらう、今度は私が邦語で文案を立て、あげやう。

中村次郎君	拜復
日出太郎	美事なる林檎澤山に御
	送り被下難有御禮申上
	候、早速一同にて賞翫
	仕候處中々の風味に有
	之候先は不取敢御禮申
	上候 早々

3. 太郎の返事

今度の文案は先生が立て、下すつた丈けあつて何となく翻譯に骨が折れるぞ、先づ「美事なる林檎澤山御送り下され難有御禮申上候」は比較的容易だ。

美事なる林檎 = nice apples 澤山 = a great quantity of 御送り下され = for sending me 難有御禮申上候 = many thanks

だから Many thanks for sending me a great quantity of nice apples だらう、それから早速一同にて賞翫仕候」は

早速 = at once 一同 = all of us 賞翫 = take pleasure in

だから all of us took pleasure in them at once かな、これは我乍ら何となく可笑しいがマア仕方がない、「中々の風味に有之候」が最大難關だ、和英字典を調べて見たら「風味」といふところに「風味のよい菓子」と云ふ文例があつて tasty (delicious) cake とあるから此 tasty か delicious

を用ひることにしやう、さうすると they were very delicious (tasty) かな、they were ぢや何だか前と連結がつかないやうだから We found them very delicious (tasty) とするかナ、先づ早速書上げて見やう哩。

Dear friend,—Many thanks for sending me a great quantity of nice apples. All of us took pleasure in them at once and found them very delicious.

Yours truly,
Taro Hinode.

4. 未曾有の不成績

先生は太郎の試作を見て頭から湯氣を立て、怒鳴り出した、「これりや太郎さん、今迄にない不出來だ、君にしてどうしてこんな拙い英文を書いたか太郎さん、私は今迄に何度も話して

居るだらう英文の第一の目的は達意にありと云ふことを、自分の意が先方に達しなくてはどんな名文句を用ひても何にもならん、初學者が英文を認める場合には字句修練よりも何よりも真先に考ふべき事は達意と云ふ事だ、失禮ながら君の今度の試作は達意と云ふ事に缺けた點が少々あるやうだ、先づ完膚なきまでに批評訂正をするからよく注意して聞いて腑に落ちるやうにして下さい」と云はれて例の如く諄々と教へられた要領は次の如くである。

(1) Many thanks for sending me a great quantity of nice apples は理屈に合はない、sending (送つたこと) に for (對して) many thanks (難有御禮) と云へば、(送られた林檎)に對して御禮を述べるのでなくして「林檎を送つたと云ふ行爲に對して禮を云ふやうだ、ネ考へて御覽なさい、さうてせう、ですからこれは Many thanks for a quantity of nice apples you sent me (貴君が送られた美事なる澤山の林檎に對して御

禮申上候)と云ふやうに云はなくてはならぬ。

(2) それからこれは文の巧拙と云ふ問題になつて誤謬訂正と云ふ範囲を超へるかも知れぬが、今の Many thanks for a great quantity of nice apples you sent me は文としてあまり巧でない、決して誤謬でもないがモ一層簡単に Many thanks for your nice present (結構なる贈物に對して御禮申上候)とした方が氣が利いて居る、日本の習慣では人に物を贈るときには澤山やるにも「些少には候得共御送付申上候」と云ひ、佳い物をやつても「粗末の品に候へ共御笑納下され度候」とイヤに嫌疑するがそれに反して人から物を貰ふと少許でも「澤山に御送り下され」とか不味なものでも「結構なる御品御送り下され」など云ふが、英語の手紙ではこんな虚禮にはあまり重きを置かないのである。

(3) All of us took pleasure in them at once

は at once がいかにも強い響きかして餓虎が食を争ふ如く中村から送られた林檎に飛付いて食するやうだ、邦語の「早速」は英語では省略して了ふ方がよい、これがあると却つて異なる感じを興へる、took pleasure in them はいけない、太郎は和英字書でこれを探したと云ふが此場合では用所不適である、一體和英字典といふものはこれを善用すればよいものには違ひないが和英字典にあるものは何でも其儘使用されると考へて前後の文章に頓着せずに用ふると飛んでもない事になるのである、took pleasure in も用所に依つては頗るよい文句だが本文の場合には當筈らない、本文の「賞翫」は單に「食ふた」と云ふ意味になるから eat の過去の ate を用ふる方がよい、それから all of us も特に all of us と云はなくても單に we でよい、即ち we ate them and found them delicious でよい。

(4) 以上の we ate them は露骨すぎるから

これは略して了つて we found them very delicious 丈けても十分「賞翫仕候」の意が含まれて居るのである。

(5) 「先は御禮迄草々」は太郎の頭で略したものだ。これは入れてもよからう、英語で Again thanking you for your kindness 杯をこゝへ用ひたらよからう Again thanking you は「再び御禮申上候」だから丁度邦語の「先は御禮」に相當するのである。

先生は例の通りに二様の訂正文を太郎に示されたのである。

(A)

Dear friend,—Many thanks for the nice apples you sent me. We found them very delicious.

Thanking you for your kindness,

Yours ever,

Taro Hinode.

(B)

Dear friend,—I sincerely thank you for the nice apples you were kind enough to send me. We all ate them with great relish.

Again thanking you for your present,

Yours truly,

Taro Hinode.

(A)(B) 共 Again thanking you は必ずしも必要と云ふものではないのである。

第八章

1. 三郎の合格

佐賀に居る太郎の従兄大貫三郎は太郎よりは二つ年上、今年高等學校の入學試験を受けたが一舉にしてこれに合格した、其旨を奇麗な繪葉書に書いて言つてよこした、「併し三郎君にも似合はない、文句は日本文だ、それぢやア僕の方

ては一つ英文の祝辭を送つて勝ち誇つたる三郎君に鼻を明かさしてやらう」と早速太郎の認めた邦語の祝文は次の通りである。

大貫三郎君	日出太郎	前略	貴君には第五高等學校
		入學試験に首尾よく御	合格同校寄宿寮に入ら
		れ候由喜悅此事に有之	候、時下氣候不順に付
		御自愛專一に被成べく	

例に依つて和英字典で索つた難句難語は次の通りである。

高等學校 = high school. 入學試験 = the entrance examination. 首尾よく = successfully. 合格 = pass. 寄宿寮 = dormitory. 入る = enter. 喜悅此事に候 = this is a matter for congratulation. 時下 = now. 氣候 = climate. 不順 = changeable. 御自愛專一 = take good care of yourself.

2. 太郎の試作

太郎は例の如く苦心の末、次のやうな試作が出来上つたのである。

Dear Saburo,—I hear you have successfully passed the entrance examination to the ^{First} High School and entered the dormitory of the same school. This is a matter for congratulation. At present the climate is changeable, so please take good care of yourself.

Your cousin,

Taro.

先生はこれを見て「太郎さん、三年経てば三つになるとは實によく云つたものだ、今度のあなたの試作はマアマア英文になつて居る、私が訂正するところがあればそれは文法上の誤謬ではなくて文章の拙いところを直すと云ふ丈けのことだ、これはつまり英作文の第二期に入つた

ものである、ところがだ、太郎さん僕に今日は少し氣焰を吐かして呉れ給へ、今日本の英學生で他人の書いた英文の誤謬は發見する事が出来ても其巧拙を批評し得るものが果して幾人あると思ふね、英文が活字になつてならべてあればこれは皆一樣な英文だと思つて了ふ、西洋人が見れば This is quite unintelligible! (これは無苦茶茶だ)と苦笑する程のものでも日本の學生は印刷にさへ附してあれば字引と首つ引でこれを読む、實に私は日本の英學生にモウ少し眼を開けさせたいよ、此頃も或英語雜誌の英文の社説を見て私は無然として嘆これを久しうしたね、文法上の誤謬も四つ五つ、それからマァ一體が殆んど英文として成つて居ないと云つてよい位だ、あんなものが盛んに出て英語界を毒するのだからね、吾輩も慨して嘆ぜずんばあらずだね、オヤオヤ大分氣焰を吐き過ぎたやうだ、折角の名文の批判をスツカリ忘れて居たと例に依つて先生が批評に取懸かれた。

先生の諄々として教示した要點は概略次の如くである。

3. 先生の批評

「前にも云つた通り文法上の誤謬は寡ない、文の拙なところを訂正するのであるが、此種の訂正は理由を擧げて、かるが故にかくの如く誤れりと云ふのでないから、或は訂正の個所が腑に落ちないかも知れない、併し繰返し繰返し讀んで行けば——今でなくとも後になつて——成程と肯かるゝと思ふのである。幸ひに太郎君にして僕の期待して居るやうな伶俐な少年であるならば釋尊華を指して迦葉破顔微笑すると云ふやうに僕の訂正を見てハ、ア成程と首肯するに違ひない」と先生の氣焰は中々冷めさらにもない、が稍開直つて先生の説いた訂正の要領は次の如くである。

- (a) 先づ I hear you have successfully passedthe dormitory of the same school 迄は非難はないとしてそれで切つて This is a matter for congratulation は拙いね、だからこれを前へ續けて on which allow me to congratulate you とした方がよい。

(b) At present the climate is changeable も grammar の間違ではないけれども用語の不適當なのがある、即ち climate と云ふ語が適當でない、climate と云ふ語は「一國一地方の氣候風土」を意味するのでこれは change すべきものでない、例へば滿洲の climate だとか北海道の climate だとか云へば其一地方特有の氣候風土を云ふのだ、それで「度々變る四季の氣候は weather と云ふのである、ナ = weather を「天氣」と而已覺えて居たと、それだからいかん、どうも今の英學生は一語を一譯で覺えて置いて頗る融通が利かない、ダカラ和文英譯の時に甚だ困るのだ、「失敗」と云へば直ぐ failure と云ふ英語が出て來るけれどもさて「しくじり」「やり損い」と云ふ言葉になると英譯が出て來ない、「成功」と云へば誰しも success と云ふ語を頭に浮べるが「及第」とか「お手柄」とか云ふ碎けた日本語の譯を求めると皆頭を搔いて知りませんと云ふ、これ現今英語教授法の不完全なる所ではないか」と先生の餘燭まだ甚だ盛なりだ

先生は例に依つて二様の訂正文を太郎に示された。

(A)

Dear Saburo,—I hear you have successfully passed the entrance examination to the Fifth High School and entered the dormitory of the same school, on which allow me to congratulate you. At present the weather is so changeable, so please take good care of yourself.

Yours ever,
Taro.

(B)

Dear Saburo,—So you have passed the entrance examination to the Fifth High School and entered the school dormitory. Allow me to congratulate you on your great success. The weather being unsettled now, I hope you will take good care of your health.

Yours faithfully,
Taro.

第九章

1. 小口の歸省

太郎の友達で中村同様親しくして居る小口重市と云ふ少年がある、此少年は長野縣松本市を去る三里計りの片田舎に生長し松本中學を二年級までやつたが三年の春から東京の叔父に引取られて太郎と同じ中學校へ通ふ事となつたのである、此夏休暇には久振りて歸郷をしようと思つて居たが遂に待ちに待つたる暑中休暇も來たので太郎や中村に送られてイソイソ飯田町を出發したのが七月二十五日の早朝、夕刻にはモウ村へ歸つて兩親の膝下にあつたのである、其翌々日太郎の所へ小口から兼て約束した通り英文の手紙が來た、其文句は實に旨い、あんな片田舎で訂正をする先生はない筈だが、併しこれは彼れが松本まで出た時或る宣教師の手が全部這入つたものと後で知れた、其英文の手紙と云ふのは次の通りである。

Dear Taro-Kun,—Yesterday I found myself under the paternal roof again. My aged parents are doing very well. To-morrow I am going to climb Mt. Yakegatake, the famous volcano in our province, with several friends of mine.

Your friend,

I. Oguchi.

I found myself under the paternal roofとは、つまり I returned home と云ふのを優雅に云ひあらはしたのだナ、小口も中々凝つた expression を覺えて居るには感心した哩、My aged parents are doing very well は「年老いたる兩親も至極健全に有之候」である、シテ見ると小口の兩親はもう餘程の老年かしら、To-morrow I am going to climb Mt. Yakegatake, the famous volcano in our province with several friends of mine.「小生郷里の有名なる噴火山燒ヶ岳に明日友人數名と登山致すべく候」である、實に快舉と云はざるを得ないナ。

2. 小口の焼ヶ岳登山

其後數日小口から一葉の寫眞と共に次の如き英文の手紙が來た。

Dear friend,—The day before yesterday I climbed Mt. Yakegatake with some of my friends. We had a photograph taken on the summit and I am sending you one. The young man with a thick beard in the middle was a class-mate of mine in the primary school and is now the master of the post office in our village.

Yours ever,

I. Oguchi.

The day before yesterday I climbed Mt. Yakegatake とあるからには一昨日小口は愈々焼ヶ岳の登山を試みたものと見える、We had a photograph taken on the summit と、それでは頂上で撮影をしたと見える、流石小口だ、We photo-

graphed ourselves 杯と云ふ誤謬を犯さないのには感心した、オヤオヤこの寫眞はまた大に振つて居る、どれを見ても intelligence のなさうな顔計り、The young man with a thick beard in the middle とは、成程中央に濃い八字髭を生して居る、此男はマダ年も若さうだのに去りとは生意氣千萬ではないか、シカモ中央に儼然と構へて居る、is a class-mate of mine in the primary school ハアして見ると小口と一緒に小學校へ通つた同級生とある以上はどんなに年ッ食ひと見ても二十一二だらうに、オヤオヤ is now the master of the post office in the village は小口の村の郵便局の局長をして居るのださうだ、それで此髭、それで此中央に腕を組んで儼然と構へた様子、成アール程、讀めた讀めた。

3. 小口の温泉行

其後二三日を経過すると小口から次の如き書状が来た、これに依つて見ると小口は白骨温泉とか云ふ所に避暑をして居るとの事、そして其文句は次の通りである。

Dear Hinode,—I am now staying at the Shirahone hotsprings resort. The air is very cool here and it is like autumn in Tokyo. Of an evening, I have to put on *haori*. I am now reading the Arabian Nights' Entertainments.

Yours truly,
I. Oguchi.

I am now staying at the Shirahone hotsprings resort. とは「小生目下白骨温泉場に入浴中に御坐候」で The air is very cool here and it is like autumn in Tokyo は「當地の氣候は誠に冷しく

東京の秋の如くに有之候」だナ、「氣候」に air を用ひたのは感心、此場合 air の方が weather よりは better である、of an evening は「夕方杯には」である、I am reading the Arabian Nights' Entertainments は「小生只今アラビヤ夜話を讀み居候」だナ、小口の手紙を太郎が翻譯したのは次の如くである。

拜啓小生只今白骨温泉
に入浴致し居り候、當
地氣候冷しく丁度東京
の秋のやうに候、小生
只今アラビヤ夜話を讀
み居申候 草々

小口生

日出太郎君

第十章

1. 太郎の旅行

今日此頃の暑さは又格別である、八月某日太郎の宅を訪問されたのは懐かしい先生「太郎さん病後の身體を一層健全にする爲めに一つ近縣旅行をして異つた風物を見、變つた空氣を吸つて來やうぢやないか」との事、太郎に取つては棚から牡丹餅とは此事である、早速快諾、「扱行くにはどこがよからうか、野州日光! さうださうだ日光へ行つて瀧めぐりをし中禪寺湖畔で悠くり寐て來やう」と先生何かと云ふと寐ると仰しやる、頭をよくする爲めには寐るのが一等だとは先生の持論、旨い物を少し食べて適度に運動をしよく眠つた後で少量の勉強をせよと先生はよく子弟に教えられる、併しそんな事が實際出來やうかなどと時には疑ふ事もある、何がさて日光行は双手を擧げて大賛成、善は急げと早速十時二十分の日光行に乗つて上野驛を發した、

宇都宮を通過してモウ今市あたりから空氣がどことなく冷たくて exhilaratingだ、日光町へ着いたのが夕刻、小西の別館に入つて一浴の後坐に直つたところが廊下先きに「日光名所繪葉書はよろしう御座いますか」と賣りに來た女がある、先生と太郎は其數枚を購ふた、そして東京の父母や友人にそれを送ると云ふ段取りとなつた、今日は傍に先生と云ふ生きた和英字引も居ることだからみんな英語で書かうと先づ父母への文案を認める。

御兩親様	只今日光へ着小西旅館 に入りました、氣候は 東京よりもグツト冷し いやです、明日御廟 へ參詣のつもりです
太郎	

傍に先生が居るからと云つて一から十まで先生に教はつたのでは自分の修業にならない、先生も居ないつもりで又字引も勿論ないとして一

腕を揮つて書いて見やうと、お膳が出て「お汁が冷めますから」とお給仕の女中に注意されたのも構はず一心不乱になつて書いた太郎の the first English letter without the aid of the Japanese-English Dictionary は次の如くであつた。

Dear Parents,—I have arrived in Nikko and entered the Konishi Hotel. The weather seems to be much cooler here than in Tokyo. I shall visit the temple to-morrow.

2. 先生の再氣焔

先生は黒ビールの満を引いて目元に微醺を帯びて居る、太郎の差出す試作を見てハタと膝を打つて云はれた、實に太郎さん獨立の氣象を養ふと云ふ事は肝心な事だ、今度の君の英文は今迄君が和英字引と首ッ引で書いた何れのものよ

りも優つて居る、和英字引はこれを善用する事を解せぬ初學者には一利あつて十害あるもの、英文を認める際には自分の頭の中にたゞみ込んである語を應用して書かなければいけません、ところがである、世間の英學生を見ると和英字引なしにはペンが一寸も動かぬと云ふ有様だ、それアどんな大家にならうと忘れた言葉、知らない言葉のない事はない、例へば動植物の名だとかなにかになると英文の大家でもこれを和英字引に求めることがある、併しこれ以上に Phrase や何かを和英字引で求めやうとするのは實に愚の至りだ、木に竹を繼いだやうな英文を初學者が時々書くのは和英字典からすべてのものを得やうとするからである、太郎さん、よく覺えて置き給へ、君が英作文の進歩を検するには先づ (一) 和英字引が漸時不用になつて (二) 其代りに原書の字引——小さいのならチェンバースの二十世紀字典や大きいにはスタンダードやウェブスターの大字典の如きものが必要となり (三) 又偶には説明も何も出て居ない

類語典 (Synonym Dictionary) が必要となつて来る。和英字典を唯一の頼みとしてそれと首ツ引でペンを動かすやうぢやア駄目だ駄目だ」とビール泡と共に先生の氣焔は愈高い、太郎に訂正を催促されて先生が云ふたのは「今度のは殆んど無缺と云つてもよい位だ、併し唯一つ目に着いたのは entered the Nikko Hotel と云ふ言方だが「旅館に投ずる」は put up at と云ふ熟語があるからこれを用ひたらよからう、訂正文は例に依つて (A)(B) 二種を示さう」。

(A)

Dear Parents,—I have just arrived in Nikko and put up at the Konishi Hotel. The weather seems to be much cooler than in Tokyo. I shall visit the temple to-morrow.

Your affectionate child,
Taro.

(B)

Dear Parents,—I have arrived in Nikko and am at the Konishi Hotel. The air is cool and exhilarating here and the temperature must be lower than in Tokyo. I intend to visit the Shogun mausoleum with my teacher to-morrow.

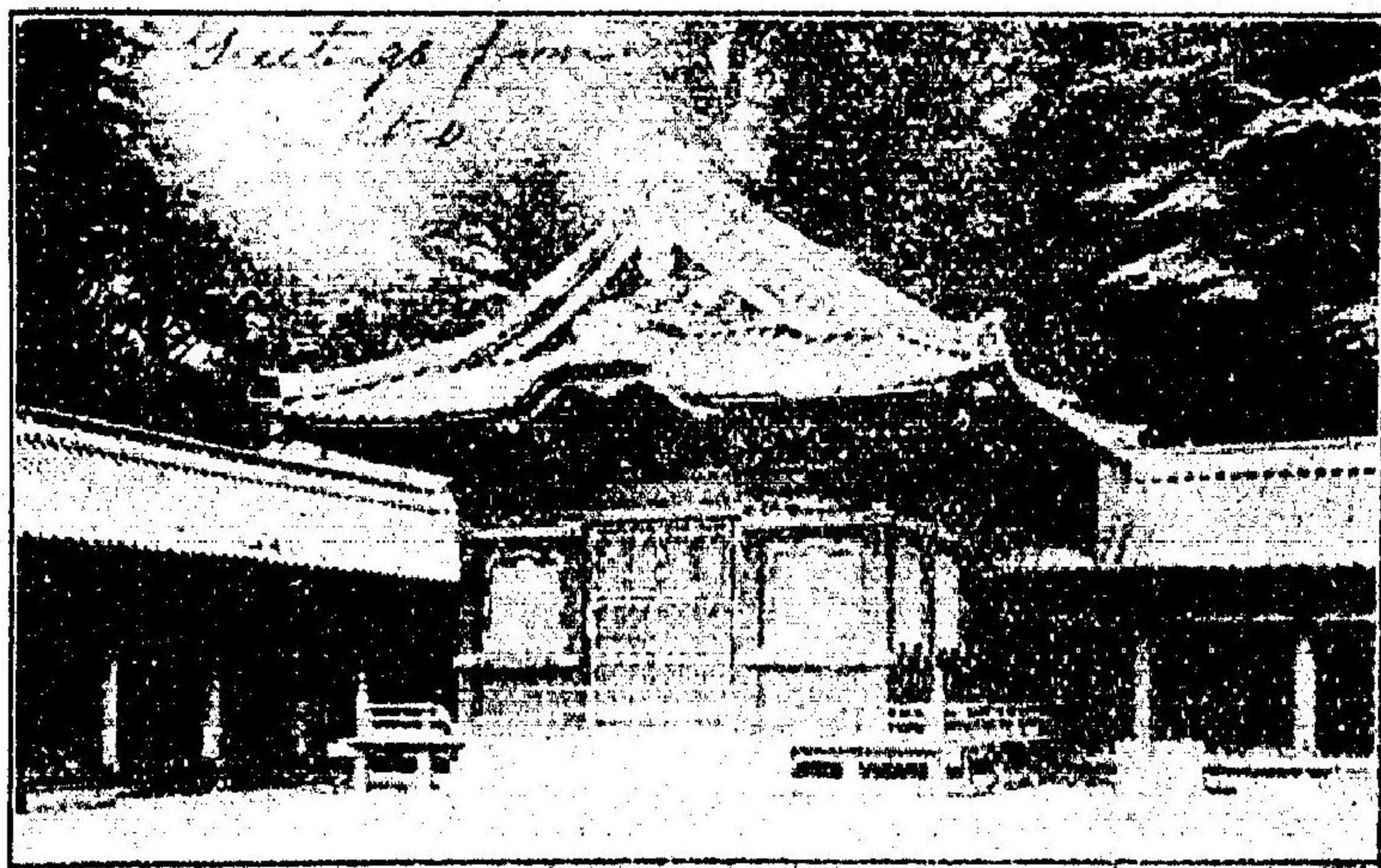
Yours affectionately,
Taro.

【註】 the temperature must be lower than in Tokyo は「東京よりは温度が低いに違ひない」の意味で原文にないが前後の連絡上附加したのである。

3. 諸友への繪葉書

太郎が両親への英文繪葉書を書終つた先生が冗談交りに云はれた「太郎さん、君の勉強を discourage する譯ではないがこれから君が諸方へ英文の繪葉書を出さうとすると或は夜が明けて了ふだらう、そこで僕が便法を教えやう、これ

は英文はがきの書方の秘訣て是非英學生の心得て置くべき事である、君や僕のやうにこうやつて旅行をする、デ旅行先から懇意なもの杯に宛てる時「只今無事どこそこへ着致候」と云ふ事を云ふ代りに簡単に繪葉書の左上隅へもつて行つて“Greetings from どこそこ”と書く、さう々々 Greetings は「挨拶」と云ふ意味で複数の形に用ひられる字です、そして Dear——も要らなければ Yours truly も不要である、日光に居れば Greetings from Nikko と書き鎌倉に行つての事なら Greeting from Kamakura てよいのだ、ソレ僕のはみんな Greetings from Nikko て間に合はせてあると見ると次の如くてあつた。



第十一章

1. 太郎の緊禪一番

新學期が始まつた、休中はよく遊んだものだ、先生と日光へ遊んでそれから歸京後は又々伊香保鎌倉と方々へ行ツた、行く先々では繪葉書を求めて先生からの秘傳て Greetings from Ikao や Greetings from Kamakura を書いて友人に送つた、併し又 in earnest に勉強せねばならぬ時期となつた、All play and no work will make our Taro what? (恐らく此儘で遊んで暮したら不良少年の隊長位になるだらう、此際緊禪一番、大いに勉強せざアなるまいと大向への見得よろしくあつて父上の書齋より持來りたる Review of Reviews と云ふ雑誌、廣告欄を何氣なく開いて見ると倫敦の大書店 Green & Co. (假名を用ふ) にて無料にて出版目録を進呈すと云ふ廣告が出て居る、先づ此 catalogue を送つて貰つてそれから書物の撰擇をし早速注文をするとしやう、そこで目録請求の letter を書かねばならぬ。

2. 目録請求の手紙

「目録請求の手紙はどう書くものやら別に六ヶしい事もあるまい、一つ日本語で文案を立てゝ見る事としやう哩」。と太郎の獨言。

グリーン商會 御中	日出太郎	被下度願上候 最近のもの一部御惠贈 承知仕候就いては何卒 送付の事リゲユ、オ 拜啓、貴店目録無料御
--------------	------	---

そこで和英字典によつて例の通り難句難語を調べて見ると次の如くであつた。

貴店目録 = the catalogue of your shop 無料 = free of charge 送付 = send 承知仕候 = I understand. 最近のもの = the latest one. 御惠贈 = give.

そして太郎の試作は次の如くであつた。

Dear Sirs,—I understand in the *Review of Reviews* that you send your catalogue free of charge. Please send me a copy of the latest one.

Yours truly,

Taro Hinode.

3. 先生の慨嘆

「太郎さん、こんな事云つて君の氣を挫くのは實に好ましからぬ事であるが一概に英文と云つても種類が澤山ある、或種の英文に堪能なものである、或種の英文には不得手なものがある、要は各種の文體に馴れると云ふ事である、失禮ながら君の今度の試作は決して上乘と云ふ事は出来ない、先づ僕の訂正を見られよ」例によつて先生の訂正の要領は次の如くであつた。

(1) I understand は I hear と同じく「……さうだ」位の意味であるからそれよりは「誌上て見た」意味で I saw がよい、又 seeing

として I を略するのもよい。と云ふのは英文の手紙では冒頭へ I を用ひるのを避けるからである。

- (2) free of charge も悪い事は決してないが簡潔を尊ぶ英文の趣意から云へば free のみで of charge は不要である。
- (3) Please send me a copy of the latest one の次に and oblige を入れて「願上候」の意を附加するがよい。

と訂正は以上丈けてあるところを見れば先生の慨嘆は稍大袈裟であるかも知れなかつた、そこで先生は又二様の譯文を示された。

(A)

Messrs. Green & Co.,
London.

Dear Sirs,—Seeing in the *Review of Reviews* an advertisement that you send your catalogue free, I beg you will send me a copy of the latest one and oblige,

Yours faithfully,
Taro Hinode.

(B)

Messrs. Green & Co.,
London.

Gentlemen,—Referring to your advertisement in the *Review of Reviews* that you send any one your free catalogue, may I ask you to send me a copy of the latest one?

Yours faithfully,
Taro Hinode.

4. 太郎の書籍注文

其後約一ヶ月半、倫敦のグリーン商店から美しい書籍目録を送つてよこした、あれこれと希望書籍を調べて見たがサア買ふ本が多い、「これも買はう、あれも買はう」と毎日カタログを見乍ら云つて居るので口の悪い太郎の祖母さんから太郎さんは「買はう買はう」と鳥見たやうだと冷かされた、遂に五六種の書籍を選定し

とか Enclosed you will find とか云ふのを常とするのである。

(2) ——pound も普通でない、「磅」は通例 £ なる略字を以てあらはすのである、即ち £.—— である。

(3) Please send me の前に for which (「以上の金額に對して」の意味) を加へて文の連絡を圖る方がよい。

先生の示された二様の文例は次の通りである。

(A)

Messrs. Green & Co.

Dear Sirs,—Enclosed you will find the postal money order for £.——, for which please send me the under-mentioned books.

.....
.....
.....
.....

Yours truly,
Taro Hinode.

(B)

Messrs. Green & Co.,
London.

Gentlemen,—Enclosed please find the postal money order for £.——, for which please send me the following books.

.....
.....
.....
.....

Yours faithfully,

Taro Hinode.

第十二章

1. Fire Season 来る

火事は江戸の花と云つた時代は既に過ぎた、けれども fire season の近づくと共に時折火事の報に接する事もある、十一月某夜はイヤにカラ

ツ風が吹いて居た、太郎が床に就かうと思つて居る際ジャンジャンと二つ番の警鐘がなつた、モ一ツ鳴つたら黙つて寐られる太郎ぢやアないんだけども二つ番ぢやア何となく物足りないやうな気がして生あくび二つ計りして床に入つた、其翌朝太郎が某新聞を開いて見ると「本郷の大火」と云ふ標題の下に本郷の丸山新町から發火したのが折柄の東北風に吹き煽られて東片、蓬萊へ延焼し殊に東片の町大部分は焼けたとある、中村次郎君のお父さん中村男爵邸は如何にと思つて類焼の番地を尋ねて見るとこれも焼けて居る、さうして西片町の同族永田子爵邸に立退いたとある、ア、こうと知つたら昨夜は驅付けるのであつた、そして中村の愛讀書の一冊なりと手傳つて持出してやつたものを！早速見舞に行かうかと其旨を父上に話すと、「ナンノお前等が見舞に行つたとてさう云ふ混雜のところ却つて邪魔になるばかりだ、今日放課後に見舞に行つたらよからう、其時は少しは片附いて居やうから」との事である、成程さう云へば

それも道理、それでは早速中村へ類焼見舞の手紙を出さう、それは不斷からお互の往復文は英文に限るとの堅い約束であるから英文で書かうか知らん、併し人の災難を餘所に見たあまり呑氣な仕打と中村に怨まれやしまいか、併しこちらの同情を示すのは何の邦文と英文とて相違のあるべきものでない、若し中村が英文で見舞状を送つたのを悪く取らるなら後で詫びれば仔細はないと、早速火事見舞文の下書に取かゝつた例の通り最初に認めた日本語の文案は次の如くであつた。

前略、本日の新聞紙上に於て昨夜本郷に大火有之、貴宅も御類焼の趣き承知驚愕仕候、貴君及び御兩親様には何の御怪我も無之候や、不取敢御伺まで、

中村次郎君
日出太郎

二伸、尙後刻御尋ね致すべく候

2. 太郎の試作

火事見舞の英文の手紙とは滅多に出會した事がないナ、牛込の私塾に通つて居る隣家の角太郎と云ふ少し足りない子が此間さういつて居たつて、角太郎が先生に英語の手紙の話聞いたら先生の云ふのには英語の手紙は先づ招待文、報知文、推薦文等に別れて居て最も多いのが commercial letter (商用文) と love letter (戀文) だよと云つたさうだ、私塾の先生なんと云ふものはいゝ加減な事を云ふものだ、そして「火事見舞の手紙だの盜賊見舞の手紙だのと云ふものは英語の手紙にはない」と云つたと、太郎が先生に此話をしたら先生は「衣食の爲めに學を教える人は大抵そんなものだ」と云はれた、其時僕は成程と感心したネ、オヤオヤくだらぬ事を考へて居ると出校の時間に遅れる哩、早速和英字引で難句を採出するとしやう。

今朝 = this morning. 新聞紙 = newspaper.

大火 = a big fire. 類焼 = burnt down. 驚

愕仕候 = I am surprised. 御怪我 = hurt.

不敢取御伺 = hasten to inquire.

どうも急いで集めに材料はあぶないな、併し兎に角これを一纏めに纏めて見やう。

Dear Nakamura,—I am surprised to learn on newspaper to-day that there was a big fire in Hongo last night and that your house was also burnt down. I hasten to inquire if you and your parents were not hurt.

Yours truly,

T. Hinode.

P. S. I shall call on you later.

3. 先生の批評

例の通り先生の批評を概括して下に掲げる事にする。

(1) 先づ on the newspaper this morning 三つ云ふ事がある、邦語では「新聞紙上」と

「上」の字を用ふるからとて on はいけない、英語では此場合は in を用ひなければならぬ、それから newspaper は「新聞」のことには違ひないけれども單に paper で十分意が足りる、これを「紙(カミ)」と間違へれば間違ふ方が悪いのだ、それから newspaper を paper にしたところで paper to-day はいけないから to-day's paper とする。

(2) I hasten to inquire の前に Allow me to tender my deepest sympathy and の如く「深く御同情申上候」と云ふやうな文句を入れた方がよい。

(3) if you and your parents were not hurt の hurt は拙い、成程「御怪我」を直譯したものとすればさうも取れるけれども、要するに hurt は稍大袈裟であるから、not hurt の代りに safe (安全)と云ふ語を用ひて if you and your parents are safe とした方が數段文章が上るのである、それから原文に「御両親様」とあるればとて必ずしも your parents を用ひなくともよいのだから if all of you are safe とするもよからう。

例に依つて先生は二様の譯例を示されたのである。

(A)

Dear Nakamura,—I am surprised to find in to-day's paper that there was a big fire at Hongo last night and that your house was also burnt down. I hasten to tender my deepest sympathy and to inquire if all of you are safe.

Yours ever,
Taro Hinode.

(B)

Dear friend,—I learn with great astonishment in to-day's paper that a big fire took place in Hongo last night, and that your house was also destroyed. Allow me to express my heartfelt sympathy and let me know if you are all safe.

Yours ever,
T. Hinode.

第十三章

1. 太郎の叔父

太郎の叔父に新聞記者が一人居る、都下の有力なる或る新聞に居て随分記者仲間での古顔になつて居る、いつでも右手を懐に振ち込んで左の手で疎髻を撫て乍ら高田實の扮せる荒尾讓介よろしくと云ふ態度でやつて来る、太郎の事はいつも「小僧々々」と呼捨てにするので太郎もあまり好きな叔父さんてない、そして来る度毎にヤレ桂がどうの西園寺がどうのと内閣の大臣は自分の友達のやうな大きい事を云つて計り居る、けれども感心な事には「おれの頭は雑駁だから困る」と、云ひ乍ら何かしら本を讀んで居る、朝起るのが十時半ださうでそれで冷水摩擦を済ませてから書齋に入り風月のカステラを五つ切計りに眞黒に出た珈琲に牛乳を交ぜてガブガブやり乍ら書見をする、此間迄 Review of Reviews を讀んで居たがステッドがいやに自由

党内閣の肩を持つて居るので氣に入らぬと云つて倫敦タイムスの週刊でも取らうかと云つて居られた、此叔父さんが今朝もやつて来た、袂から一片の洋紙を取出して太郎に向ひ「小僧、貴様これを一寸讀んで見い」と来た、此「見い」が一體癢に觸る、同じゾンザイな言葉でも「讀んで呉れい」と云ふなら聞きよいのだが「讀んで見い」は癢だ、併し叔父の吩咐、斷る事も出来ないからとこれを擴げて讀んで見ると、次の通りだ。

Sir,

The Publisher of the Review of Reviews begs to say that your present subscription will end on December 15th. If you desire to continue the subscription, a remittance should be made previous to that date.

The Publisher.

叔父さんにはこれが讀めたか知らん叔父さんが英書を讀む時には固有名詞と動詞を見た丈け

てアトは好加減の當推量をするのだ、あれはロイテル電報読みと云ふものだと云ふた人もあつたが今日は叔父さんに一つ英語の講義をしてやらう、と太郎が初學者にても教える氣になつて次の如く説明したのを叔父さんはニコニコ笑ひ乍ら聞いて居た。

- (1) The Publisher of the Review of Reviews は「評論の評論發行人」で此場合に第一人稱を用ひないのに御注意なさい、ネー叔父さん。
- (2) begs to say は「御一報申上候」で「云ふべく願ふ」杯と舊式の直譯をしちやアいけませんよ、ネー叔父さん。
- (3) subscription は「購讀料」ですよ、will end on December 15th は「十二月十五日にて切れる」との意で「前金」の意を含める爲めに the subscription which you paid in advance 杯としなくてもよいんですよ、ネー叔父さん。
- (4) if you desire to continue the subscription.

は「引續き御購讀の節は」で文字通の意味ですよ、ネー叔父さん。

- (5) a remittance は「送金」です、previous to that date は before that date です、併し previous to や before を「前に」と譯するのは愚ですよ、叔父さんなんか昔流に英語を習つたんですから before や previous to はいつでも「前に」と譯して居るんでせう、これは正則に云へば「迄に」と譯すべきなんですよ、ネー叔父さん。

天晴れ太郎は叔父さんに英語の教授をしたつもりで居る、否、實際太郎の説明の或部分は太郎の叔父さんには新らしく聞えたに違ひない、が叔父さんは例のヌーボー式、「ウンエイエイ、貴様大分英語が進んだやうぢや、トコロでぢや、吾輩は今度 Review をやめてぢや、新たに倫敦タイムスの週刊を取らうと思ふんぢやがナ、貴様一つタイムス社へ注文狀を書いてくれ、練習になるぞ」オヤオヤ、「練習になるぞ」が癪だね、併し實際練習にはなる、「よろしい引受けませう」

と云ふと叔父さんは袂から十圓紙幣を二枚出して「これで——この半分は購讀料として萬國爲替に組んでのう、残つたのは小僧お前のお正月のお小遣ぢや」と來た、だから云はないことぢやない、叔父さんは威張つてるにやア威張つてるが金の出しつ振りはいゝよ、僕のお父さんもさう云つたつけ、叔父さんは金が持てない性分だつて、けれども僕だつて勞力に對する報酬を受けるには客ならず僕もマア今迄十二三本英語の手紙を認めたが今度は本當の商買になつた、どうだらうこれから表に「英語の手紙代書所」とでも云ふ看板を出して置いたら毎日平均一人づゝ來て報酬が十圓宛、月に積つて三百圓、渺たる一中學生が忽ち縣知事以上の月給取となるわけだナ、ハツクシヨイ！寒い、お正月を間近に控へて風邪を引いて堪るもんか、ドレドレ叔父さんに頼まれた手紙の草稿を書くとしやう哩。

2. タイムス週刊の註文

太郎が書いた倫敦タイムス週刊の注文書なるものは次の如くであつた。

倫敦 タイムス 出版部 御中	十二月一日 大堀兵輔	大日本 東京市 神田 區 小川町一	上候 號より 左記へ 御送付 願	イムス 週刊 號來る 一月	て同封 致し候 間倫敦 タ	金壹磅 萬國 郵便爲 替に	前略
-------------------------	---------------	-------------------------------	------------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	----

以上を叔父さんに示すとこれでよいから早速書いて呉れいと云ふ、今度は今迄のやうに練習半分のものとは違つて實務文であるから location (住所) も date (日附) も略すわけにはいかん齋戒沐浴して認めねばならぬ、先づ難語難句を調べて見ることにしやう。

金壹磅 = £. 1. 萬國郵便爲替 = an international postal money order. 同封致置候 = en-

closed please find. 倫敦タイムス週刊號= the London *Times*' Weekly. 一月號=the January issue. 左記へ=to the undersigned address. 御送附願上候=please send. そこで太郎の試作は次の如くであつた。

Tokyo, Japan

December 1.

To the Publisher of the London *Times*.

Dear Sir,—Enclosed please find an international postal money order for £1; for which please send to the undersigned address the London *Times*' Weekly from the January issue.

Yours truly,

Hyosuke Obori.

1, Ogawamachi, Kanda,
Tokyo, Japan.

3. 先生の訓戒

先生が太郎から叔父さんの依頼の一部始終を聞いて云はるゝのには「太郎さん、それは大變佳い練習の機會を得たものだ、自分が只練習に書くに云ふだけではあまり上達の望が寡ない、けれども卑しい根性を出して一頁書けば幾らになるなどと云ふ事は嘘にも考へちやアいけません、只自分は自分の仕事に對して他人から報酬を呉れる其報酬に對しても責任を重んじて書かなければならぬと云ふやうに常に考へておいて下さい、一體學問と云ふものは學校よりも世の中に出て習ふ方が多い、言葉を換へて云へば先生に教はるよりも自分で自分自身に教える方が多い、私杯がだ、學校に居た時分は英語は一ばん出来ると思ふて居ました、學校を出て英語教員に成り立てはどうだつたかと云ふと自分が學校で習ふた事のあまりに少ないのに驚いたのであります、嘘のやうな事實談だが私は前任地で中學の一年級を教えた時 tooth を *tōsu* と發音し

て生徒に揚足をとられた事もある、自分が人から教はつて居るうちはどうも知識が確實にならない、自分が實社會に出てこれを活用して始めて確實になるのである、だから練習と云ふ事も必要だがこれを實地に應用すると云ふ事も心懸けなければならぬ、第一氣組が違ふと見えて太郎さんの今度の試作なども原文の六ヶしいのには非常の出来榮えと云はねばならぬ、そこで今度は僕も念入りに批評訂正を加へることゝしやう」と先生がいつもの親切に輪をかけて説いた要領は次の如くである。

- (a) Enclosed please find は此前太郎の書籍注文の折にも出て來た文句でこれを Enclosed you will find とするもよいので。
- (b) for which please send to the undersigned addressも立派な出来榮えてある、addressは「住所氏名」の意でこれは下へ full address

を書いたから undersigned と云ふたのだが普通に location を認める手紙の上端右隅に address を書かうなら above address と云ふ事は解り切つたことだ。

- (c) the London Times' Weekly は少々訂正を要する、これは Weekly edition of the London Times と云ふた方がよい。
- (d) from the January issue も稍首肯し兼るから from を commencing with the January issue とした方がよい、commencing with とは「……より始めて」の意で丁度意味は from と云ふに同じである。

先生は今回は例に似氣なく只一つしか作例を示して下さらぬ、そしてこれは練習でないからこうも云へるあゝも云へるといふ事を覚えるより其 best form はこれだナと云ふ事を悟つた方が有効だと云はれた。

Kanda, Tokyo
Dec. 1, 1912.

To the Publisher of the *London Times*.

Dear Sir,—Enclosed you will find a postal money order for £. 1, for which please send to the undersigned address the Weekly edition of the *London Times* for one year commencing with the January issue.

Yours truly,
Hiyosuke Obori.

1, Ogawamachi Kanda,
Tokyo, Japan.

第十四章

1. 札幌の叔父

モウ正月も間近くなつて来た、ビュービュー空つ風が都大路を吹荒して寒氣日増に加はるや

うである、太郎の母方の叔父に北海道の札幌農科大學の教授をして居る中尾龍士と云ふ人がある、東京でも今日此頃の寒さに札幌の叔父は如何暮して居るだらう、叔父は英語擔任の教授ではないけれども太郎の出す英語の手紙位解せぬ筈はない、これは一つ英語で寒氣見舞の手紙を認めて見やうと太郎の邦文で立てた文案は次の如くであつた。

拜啓
此頃は寒氣殊の外嚴し
う御座いますか御叔父
上様始め御一同様如何
御凌ぎ遊ばされ居候
や、小生事不相變無事
消光罷居候
日出太郎
中尾龍士様

太郎の和英字典により索出した難語難文は次の如くであつた。

此頃 = of late. 寒氣 = cold. 殊の外 = especially. 嚴しう = severe 又は intense. 如何御凌ぎ = how.....getting along? 無事 = safely.

「不相變無事」の「無事」を safely は可笑しい live in peace としやうかしら、兎に角駄文を書いて見やう、と太郎の書いた英文は次の如くであつた。

Dear Uncle,—The cold is especially severe of late. How are you and your family getting along? I am glad to say that I am living in peace.

Your nephew,
Taro Hinode.

2. 先生の批評

先生の批評は賞めるのだから、けなすのだから一寸解らない、曰く「太郎さん、君の英文は或程度迄頗る達意的である、僕は今の中學生の英文がすべて君の英文の如く拙くとも意が達して居るやうにならん事を望むのである」と、併し「拙くとも」は少し計り氣障である、が先生が「拙く

とも」と云はれた理由は次の説明を聞いて太郎に成程と合點が行つたのである。

- (1) The cold is severe of late は別に悪いと云ふ事はないけれども It is unduly cold of late とするか the cold is unduly intense of late が better である。
- (2) How are you and your family getting along? は點の打ち所のない出来である。
- (3) 「無事消光致居候」を I am glad to say I am living in peace は訝しい、これは單に I am glad to say I am very well 杯が簡單で far better である。

先生の示された作例は何時もの通り次ぎの (A)(B)である。

(A)

Dear Uncle,—It is unduly cold of late. How are you and your family getting along? I am happy to say I am doing very well.

Your nephew,
Taro.

(B)

Dearest Uncle,—How are you and your family getting along in this unduly cold season? Am happy to say that we are all in enjoyment of excellent health.

Your nephew,
Taro.

3. 叔父の返事

其後數日を経て札幌の叔父から以上に對する返事の繪葉書があつた、それは白雪皓々たる札幌市街の圖で表面の通信欄には次のやうな英文の文句があつた。

Dear Taro San,—Thank you for your kind inquiry. I am happy to say we are all very well. We had a severe snowstorm here in Sapporo yesterday, in consequence of which the train arrived some four hours behind time.

Your uncle,
R. Nakao.

以上を太郎が讀んでゾツとした、東京ではまだ初雪も見ないと云ふに札幌では大吹雪があつたのだナ、そして汽車の延着約四時間とは驚くべき事ではないか、早速これを和譯して先生の宅へ持行くと満點を與へられた、其和譯と云ふのは次の通りである。

太郎殿

十二月廿日

叔父より

拜啓、御見舞狀難有承
り候小家一同幸ひ無事
に有之候、昨日當地に
大吹雪有之その爲め列
車は約四時間延着致候
草々

第十五章

1. 太郎の忘年會

學期試験も最早済んだ、一つ中村始め数名の友を招いて豚飯會をやらうかしら、勿論我等學生として intoxicating liquor は慎まなければならぬ、これを抜きにして無藝大食の我等であるから五十錢丈け豚を買ひあとの費用は母上から支辨して戴くとしやう、それにしても招待文は英語で書かう、そして先づ日本語で文案を立てると。

中村次郎君	卒御出席下さい	草々	何	開	忘	志	を	招	い	て	忘	年	會	を	開	來	る	土	曜	日	僕	の	宅	で	同
	日出太郎																								

扱こゝで忘年會と云ふ難字があるマサカ西洋人はこれを year-forgetting gathering とは云ふ

まい、併し幸なる哉太郎の持つて居る和英字典には此正譯が出て居た、それは the social gathering to speed the parting year と云ふのでこの譯なら西洋人にも quite intelligible である、そして其字典には太郎の丁度今書かうとする忘年會の招待文まで例に出て居たのである、それはこうであつた。

來る廿五日兩國常盤樓に於て忘年會相催し度年末御多忙中には候へ共萬障御繰合せ御來會願上候

As we propose to hold a social gathering to speed the parting year at the Tokiwaro, Ryogoku, on the 24th inst., we beg that you will, though you are doubtless busy at this time of the year, make every effort to attend it.

併し以上を早速太郎が自己に友人數名を招く招待文に應用する事は出來ない、試みにこれを
As I propose to hold a social gathering to speed the parting year at my house on Saturday evening, I beg you will, though you are doubtless

busy at this time of the year, make every effort to attend it とすると甚だ可笑しなものになる、これだと第一太郎が羽織袴でも着けて堂々と招待をするやうになる、又冒頭の I propose と云ふのがおかしい、これは太郎にも解る事であるから以上の文例の或部分を應用して自分なりの文を作らうと殊勝にも太郎が着手したのである、そして出来上つた忘年会招待の英文は次の通りである。

Dear friend,—I am going to invite some of my friends to a social gathering to speed the parting year at my house on Saturday evening. Will you please attend it?

Yours ever,
Taro.

2. 先生の批評

これを先生に見せると先生は太郎が和英字典の丸呑をしなかつた事を賞され、よくもこれ丈けに應用が出来たと云はれた、「太郎さん、畢竟吾々日本人の英語と云ふものは字典を如何程の程度迄に活用し得るかと思ふ點にあると思ふね、全くの初學者は和英字典を見ても解らぬ、これが英語の第一期、中學の四五年迄やると和英字典が役に立つて来る、併てそれを活用する方法を知らなくて鵜呑みの書中の文句を使用する、これが第二期、マア見渡したところ今の英學生のうちの十中八九は此第二期生であるね、それから進んで和英字典で探り得た語句も用法を原書の字引で調べて文の前後を考へてこれを使用するやうになるのが第三期、マアこゝまで進めば少しは話せると云つてよい、太郎さん、君も此第三期に入りかけたのである、今に段々和英字典の必要が減じて英文を書く時には原書の字引の力を借りるやうになればそれこそ此先生をアツト云はせるやうな英文を書くやうになりますよ」と、併し太郎の試作のうちには二三の不穩

なる點がないでもないと云はれて先生の指摘した點は次の通りである。

(1) I am going to invite some of my friends to a social gathering to speed the parting year の構文は稍不穩である、I am going to give a social gathering to speed the parting year inviting some of my friends とした方がよい。

(2) social gathering to speed the parting year はあまり和英字典に楯を突くやうになるからこれは活かして置くとしたいがどうも太郎が學友數名の招待に social gathering とはおかしいから簡単に dinner とする。先生の作例二つは次の通りである。

(A)

Dear friend,—I am going to invite some of my friends to a dinner on Saturday evening to speed the parting year. Will you please favor me with your company?

Yours truly,

Taro. Hinode.

(B)

Dear Nakamura,—Will you come and dine with me on Saturday evening. Some of my friends are also coming.

Your friend,
Taro.

(B) には to speed the parting year を畧して了つたが勿論これを是非云はねばならぬと云ふ必要はないのである。

すると同日迄に返事が來たうちで中村は例の通り英文で快諾の旨を云ふて寄越した、その文句は

Dear Hinode,—Thank you for your kind invitation which I shall be most happy to accept.

Your friend,

J. Nakamura.

以上を和譯して見ると

日出太郎様	中村次郎	参	存	待	御	前
		上	候	下	親	略
		可	仰	さ	切	
		致	せ	れ	に	
		候	に	難	も	
敬	従	有	御			
具	ひ	奉	招			

以上と殆んど同意ではあるが横井の英文は簡明で一寸しやれて居た

Dear friend,—I shall be most happy to attend your dinner party for Saturday.

Yours ever,
S. Yokoi.

村野は病身で時々風邪にとつつかれる、村野から来た次の手紙によると奴又インフルエンザで困つて居ると見える

Dear Mr. Hinode,—I am sorry I can not accept your kind invitation, as I am sick in bed suffering from influenza.

Yours truly,
T. Murano.

以上を和譯すると

日出太郎様	村野爲雄	拜呈
		小生事目下インフルエ
		ンザにて臥床致居候爲
		め折角の御招待に應ず
		るを得ず遺憾此事に有
之候		

第十六章

1. 面白い約束

太郎の父は旅行癖で有名な人である、少しでも *time at his own disposal* があると、直ぐ近縣を旅行する、全國到處足跡普しとは太郎の父の事であらう、尤も太郎の父が鐵道院に關係があつて *Government railway* はいづれにても薩摩の守が出来ると云ふ事も彼の旅行癖を助長するに與つて力あつたかも知れぬ、十二月の廿四五日から正月の十日までの休暇を利用して父はどこと云ふ當途もなくプラリト近縣旅行に出發した、出る前に太郎に向つてこう云つた。

「太郎や、わたしは又例の近縣旅行をして來ます、私の事だからどこをどうと云ふあても何もなく、先づ今朝七野から午前十一時の海岸線へ乗るまでは *programme* が立つて居るがさて其先きどこへ行くかは未定だ、勿論海岸沿線には

わしの知己が多い、仙臺まで四五ヶ所立寄る所があるかも知れぬ仙臺から青森までは先づ途中下車をするのは盛岡位だらう、それから函館へ渡つて函館では一日二日暮すつもりだ、出来る事なら札幌へも立寄らう、こうまア今の處腹でさめて居ても急に風が變つて木曾線へ出て、これから名古屋へ廻つて關西地方を飛廻るかも知れません、そこでお前と約束して置きたい事がある、それは私は行く先々から屹度其土地の繪葉書に何か文句を添へて送ることゝしやう、それを一々お前が英譯して先生に添削して貰ひなさい、私が歸つて來てそれを見てスツカリ出來て居つたら褒美にはお前が平生から欲しい欲しいと云つて居たあのスタンダード大字典を買つて上げる事にしやう、サアそれぢやア汽車に遅れるといけないから出懸けますと、僕が承諾を與ふる暇をも待たず、待たして置いた仙公の車に乗つてチリチリン。

2. 最初は汽車から

後に太郎は思案投首、サア折角の冬休みに大變なお役目を云附つたものだ、こりア愚圖々々して居れんわい、併し一方にはスタンダード大辭典と云ふ bait もある、ハテ一奮發しやうかなと思つて居る其日の夕方、父上より第一着の葉書が來た、それは萬年筆のはしり書き、筆先の亂れて居るところより見れば汽車の進行中に書いて次の停車場で驛夫に投函を頼んだものと見える、其文句はこうだ

太郎殿	父より	前略
		上野停車場へ着したる
		は十時四十五分すぎ辛
		うじて十一時の仙臺行
		に間に合ひ申候、上野
		を出て間もなく細雨霏
		々として降り來り申候

ヤ手始めが中々六ヶしい、例に依つて難句難句を和英字典で探して

上野停車場 = Uyeno Station. 辛うじて = barely. 細雨 = drizzle. 霏々として = thick and fast. 降る = fall.
そして太郎の試作は次の通りである。

Dearest Son,—I got to Uyeno Station at 10. 45 a.m. and could barely catch the 11. a.m. train for Sendai. Not long after I went out of Uyeno Station, a drizzle began to fall thick and fast.

Your loving father.

3. 先生の批評

先生が太郎から父との arrangement の一部始終を聞いて「成程それはよい練習だ、多分お父さんは毎日はがきをお寄越しなさるだらうから私も毎日あなたの英文を批評訂正する事が出来ると云ふもので先づ何より結構だ、それでこれ

が最初のはがきですか、英譯も可成よく出来ました、最初の方には少しも非難すべき點がない、が

(a) Not long after は「間もなく」の意味だらうが、これは As soon as に改めたらよからう。

(b) I went out of Uyeno Station は「上野を出て」を英譯したつもりかも知れぬがこれでは汽車に乗らないで停車場から出て来たやうに聞えていかん、「上野を出て」と云ふのは「汽車が上野停車場を去る」事を意味するのだから train got clear of Uyeno Station と訂正すべきだ。

(c) thick and fast も「霏々として」の英譯だらうがあまり大袈裟だから a thick drizzle began to fall と云ふやうに thick を drizzle の形容詞としたらよからう、そこで作例を次に示すと。

Dearest Son,—It was just a quarter to eleven when I got to Uyeno Station and I could barely catch the 11 a. m. train for Sendai. As soon as the train got clear of Uyeno Station, a thick drizzle began to fall.

Your loving father.

4. 水戸へ一泊

翌日正午頃父から第二回目のはがきが着きました、今度は繪葉書まで水戸の弘道館正面の景をうつしてある、隅つこに萬年筆で細々と書いた文字は次の通り。

太郎殿へ

父より

只今水戸に於て先年、
 車場久に偶に申召、
 へは久に吾の驛員を
 勤め居候、戸に驛員を
 イジメ居候、此の驛員を
 加沼氏を訪問するつら
 のに編纂所たる弘道館
 本史に纂有之候、

愈出て愈六ヶしくなりさうだ、難句難句を
索出さう

偶然=by accident. 先年の召使=whom
I employed some year ago. 驛員=officer.

出張所=branch. 訪ふ=call on.

太郎の試作は次の通りである。

Dearest Taro,—I arrived at Mito just now. At the station I met by accident Kyugo whom I employed some years ago. He is now an officer in Mito Station. I am now going to call on my friend Mr. Kanuma, Chief of the Mito Branch of the Rising Sun Petroleum Co. This is the front view of the Kodokan where the famous "History of Great Japan" was compiled.

Your loving father.

5. 先生の批評

「太郎さんあなたの英文は日々發達の迹が見える、段々筆を入れる個所が少なくなつて來たのは喜ばしいことである。

(a) 「偶然」に對し by accident は適字には相違なけれどもこれは全文の意味合から云つて省略して不可なからう。

(b) whom I employed some years agoとは久吾が太郎の家に僕をして居たのなら who served at our house sometime ago.

(c) He is now an officer at Mito Stationで officer とは稍大袈裟であらう He is now being employed at Mito Station としたらよからう、他に誤りはない、先生の訂正文は次の如くである。

Dearest Taro,—I am now in Mito. At the station I met Kyugo who served at our house some years ago.

He is now being employed at Mito Station. I am going to call on my friend Mr. Kanuma of the Mito branch of the Rising Sun Petroleum Co.

Your loving father.

This is the front view of the Kodokan when the famous "History of Great Japan" was compiled.

6. 福島縣平町より

翌日になつてから又々来た父よりの端書、差出地は福島縣平町とある平町には父の中學校時代のクラスメートで山作清吉とか云ふ人が中學校で英語の教諭をして居られ、中學校の教師としては勿體ない程英語の出来る人だと云ふ事は兼々聞いて居た、福島縣平町鍛冶町山作清吉方とあるを見れば昨夜は山作氏方に投宿したものと見える、端書の文句は次の通りである。

太	父	し	生	平	り	山	地	投	車	昨
郎	より	ス	平	中	に	作	中	宿	場	夜
殿		た	と	は	學	候	清	學	仕	前
へ		る	ト	中	校	、	吉	校	候	の
		人	に	、	學	の	山	君	に	、
		候	高	時	教	作	を	教	こ	橋
			師	代	諭	氏	訪	鞭	れ	屋
			を	の	に	は	ふ	を	よ	旅
			卒	ク	て	當	つ	執	り	館
			業	ラ	小	地	も	る	當	に
										停

難句難語を書出して見ると次の通りである。

後に=late. 前=in front of. を卒業したる

人=a person who graduated from.

Dearest Taro,—I arrived here in Taira-machi late last night and put up at the Funabashiya Hotel in front of the station I am going to call on my old friend Mr. Yamasaku, who is a teacher in the Taira Middle School. He was my classmate in the Middle School and a person who graduated from the Higher Normal School.

Your father.

7. 先生の批評

先生これを評して曰く、「イヤどうも益々太郎さんの英文は進歩の迹が見えます、先づ I arrived here in Taira-machi last night から who is a teacher in the Taira Middle School までは殆んど無疵で此儘通過する事が出来ます、さりながら終の方に一寸した誤謬がある、それは

- (1) He was my class-mate in the middle school であるが my class-mate と云ふと太郎のお父さんの級友は山作君一人限りのやうに聞える、ぞこれは a friend of mine (澤山あるうちの一友) の格に倣ふて a class-mate of mine とするか、さなくば one of my class-mates に改めなければならぬ。
- (2) a person who graduated from the Higher Normal School は「高師を卒業したる人」に對するあまり甚だしい直譯である、第一 a person who graduated from とは graduate (卒業せる人) と云ふ一つの名詞がある以上さりとは冗長な言廻してある。

先生の訂正した作例は次の如くである。

Dearest Taro,—I arrived here in Taira-machi and put up at the Funabashiya Hotel in front of the station. I am going to call on my old friend, Mr. Yamasaku, who is a graduate of the Higher Normal School and now teaches at the Taira Middle School. In our middle school days, Mr. Yamasaku was a class-mate of mine.

Your loving father.

8. 青森より

昨日は丸一日父より便りがない儲は programme を變へて又いづれへか行つたかと思ふて居ると其日の夕方父より一片の繪葉書が來た、それは「青森市かぎや旅館より」とある、繪葉書を見ると青森市街の雪の景色で街上に積れる雪は殆んど家々の屋根廂までも達しさうである、文句は次の通りである。

太郎殿へ
父より
拜啓小生今朝八時當地
へ着し申候、折柄大吹
雪にて市中の往來は頗
る困難に存ぜられ候、
當地裁判所に舊知關本
檢事正を訪ね申候、

太郎は例に依つて難句難語を字典で索出して見ると

折柄=then 又は at that time. 吹雪=snow-storm. 往來=walk. 檢事正=chief public procurator.

太郎の試作は次の通りであつた。

Dearest Son,—At 8 this morning I arrived in Aomori. A great snow-storm was raging, which made it difficult to walk in the city. I called on my friend, Mr. Sekimoto, who is the Chief Public Procurator of the Aomori Local Court.

Your loving father.

9. 先生の批評

「太郎さんあなたの英文は殆んどモウ手の入れどころがないと云つてよい、文法上の誤謬も皆無である、唯まだ々々いけないのは用語の不適當であると云ふことである、これは英語の進んだ研究になるのであるが併しモウ中學の四五年生になれば多少心懸けて置かねばならぬものだ、君の今度の英文のうちて用所の適さぬ語句の用法か一ツ二ツある、それは

(a) A great snowstorm の great は面白くない、これは「大吹雪」の「大」に當てるつもりだらうが、此「大」は heavy 又は severe を用ひなければいかん。

(b) in the city は「市中」に當てるつもりだらうが「市中」と云ふのは「市街」の意味だから in the street と改めなければいかん。

要するに英文に熟達しやうと思つたら先づ日本語から解して行かねばならぬ

先生の訂正された英文は次の通りである。

Dearest Son,—At 8 this morning I arrived in Aomori. A severe snow-storm was raging at the time of my arrival, which made it difficult to walk in the street. I called on my old friend, Mr. Sekimoto, who is the Chief Public Procurator of the Aomori Local Court.

Your loving father.

翌々日の朝太郎の父は直行列車で青森から歸京した、そして太郎の英文試作及び先生の訂正を見て大いに喜んだ、約束の御褒美スタンダード大辞典は新年早々太郎の机上を飾つたのである。

（後 篇）

はしがき

其後太郎の英文は益々進境を示した、彼れが「謹賀新年」を I respectfully congratulate the New Year と書いて先生のお眼玉を頂戴した以來數ヶ月間の勉強は太郎をして一通りの英文の手紙を樂々と書き得るやうに至らしめた、第二篇に掲げたのは太郎が中學五年級を卒業し遂に月桂冠を得て高等學校に入學したまで彼れの認め又は受取つた手紙である、其全部は元より太郎に影の如くついて始終太郎を教えて下さるゝ先生の校閲を経たものである。

(I)

かるた會に友を招く文

正月の七日、太郎は家で歌留多會を開いた、此時太郎が中村を招待した英文の手紙は次の通りである。

今晚拙宅でかるた會を催すから是非
お妹さん御同伴で御出て下さい大西
君小村嬢其他五六名参ります

日出太郎

中村次郎兄

(講義) 「かるた會」を *card society* (meeting, association) いづれもいけない、*card party* は佳、又「かるた取り」と云ふ意味で *card contest* もよい、——「御同伴で」は簡単な *with* でよい、*accompany* 杯と云ふ字を用ひると却つて文を壊はして了ふ、尙此篇に掲ぐる英譯 (A) は原文に忠實な直譯で (B) は意譯である。讀者は (A) を讀み意味が解つたのち、さて記憶に留めるのには (B) の方がよいと知り給へ。

(A)

Dear Nakamura,—Will you come and join our card party with your sister to-night? Mr. Onishi, Miss Komura and other friends will come.

Yours ever,

Taro Hinode.

(B)

Dear Friend,—Do come and join our card party to-night. Take your sister with you. Mr. Onishi, Miss Komura and others are expected.

Yours ever,

Taro Hinode.

(II)

太郎の叔父が冬期休暇で上京した、學校視察
 旁々の上京ださうで非常に多忙との事である、
 太郎が丁度中村の宅を訪問した留守に叔父さん
 がやつて來られた、太郎は叔父に會はなかつた
 がいかにも残念である、テ叔父が宿泊中の三崎
 町の森川館へ宛て次の如き英文の手紙を送つた
 のである。

拜啓、先日御出での節小生生憎
 不在お目にかゝるを得ず残念
 に存じ候、近日御旅館へ伺度と
 存じ候がいつが御閑暇に候や
 伺上候

(講義) 「先日も出での節は」は when you
 called on us the other day—「小生生憎不
 在」は I was absent で「生憎」に對して

unhappily や unfortunately は用ひずともよ
 い、—「残念に有之候」は I am sorry や
 I regret がよいだらう—「旅館」は hotel
 や inn は訝しい、lodgings がよからう、—
 「いつが御閑暇に候や」は when you are at
 leisure 或は意譯法によりて when it is most
 convenient for you to see me 杯がよいてあ
 らう。

(A)

Dear Uncle,—I am sorry I was
 absent when you called on us the
 other day. I am going to call on
 you at your lodgings one of these
 days. Will you let me know when
 you are at leisure to see me?

Your nephew,

Taro.

(B)

Dearest Uncle,—I am sorry to have missed your call when you came to see us the other day. I want to come and see you at your lodgings one of these days. Will you kindly let me know when it is most convenient for you to see me?

Your nephew,
Taro.

(III)

以上の太郎の手紙に対する叔父の返書が来た、其意味は「お手紙下され難有存候、小生は夜分は何時にても在宿致し居候間何卒御來遊下され度候」と云ふのである、叔父の英文は實に達者なもの、馴れぬ者には一寸判讀が出来ぬ位である、下に其寫しを掲げることにする。

Dearest Nephew.—Thank you for your kind note. I am generally at home in the evening, so please come to see me any time you like at night.

Your uncle,

H. Hirano.

(IV)

太郎の父の親友に宮島國太郎と云ふ人があつた、何でも慶應義塾の卒業生とかで京橋の肴町に大きな洋風の事務所を控へ「外國電報社」と云ふ看板を掲げ歐米各都市より迅速に電報を取寄せ翻譯してこれを各新聞社や投機業者に廻附する agency をやつて居る、創業正に十年、業務日々に隆盛を極めるのである、デ今年陽春三月の頃、田端の別荘に盛大なる園遊會を開き内外知名の士を招待しやうと云ふについて太郎に英文の招待狀起草を依頼して来た、そして先方

の示した邦語の案内文と云ふのは次の通りである。

肅啓、来る四月十日日曜日午後一時より田端別荘に於て「外國電報社」十週年祝賀の園遊會を催し候に付令夫人御同伴御來會被下度此段及御案内候也

宮岡國太郎
同 輝代子

——様
同令夫人

追而準備の都合も有之候間御來會の有無御一報被下度候

(講義) 本文英譯に依つて太郎の新らしく覺えた事は英文の正式の招待文や案内状には I (we) や you を用ひないで先方は Mr. and Mrs.——と其名を呼び、此方も Mr. and Mrs.——と名前を云ふと云ふ事である、「外國電報社十週年祝賀園遊會」は a garden party in celebration of the tenth anniversary of the Foreign Telegrams Agency である、「令夫人同伴にて」は with your wife 杯と云

ふのは極く俗で前に云つたやうに Mr. and Mrs.——で先方の名前を書けばこれで「御同伴」の意を含むことになるのである——「御來會被下度」を please attend 杯では如何にも手輕くて正式の案内状としては粗末に過ぎるから favor them (them は當方である、又先方の事も Mr. and Mrs.——と云ふから代名詞は they や them で受けねばならぬ、) with their company と云ふ——「準備の都合も有之候間御來會の有無御一報願上候」は單に R. S. V. P. と書けばよいのである、R. S. V. P. は佛蘭西語の Respondez s'il vous plait の頭文字丈けを取つて R. S. V. P. としたので其意味は英語で Reply if you please に當るのである——それから斯かる正式の案内状招待状に限り先方の宛名も書かなければ自己の署名も不要であると云ふ事だ、——太郎が書いて先生の筆の入つたのは次の如くである。

Mr. and Mrs. Miyaoka are planning a garden party at their villa at Tabata on Sunday next (April 4th) at 1 p. m. in celebration of the tenth anniversary of the Foreign Telegrams Agency and shall be pleased if Mr. and Mrs. — (先方の名) will favor them with their company. R. S. V. P.

(V)

以上の英文の招待状を書いてやつたら宮岡氏は非常に喜んで当日は是非太郎に外人接待係を勤めて呉れろと云ふ、當日太郎が宮岡家別荘へ行つて見ると先日の招待状に對する返書のうちで最も太郎の目に付いたのは目下東京で發行の外字新聞中一番名聲の高い且つ一番 circulation の廣い The Tokyo Daily News の Editor たる

Mr. Swift の返事と英國大使館附武官陸軍大尉 Capt. James との二人から來たものであつた、前者は「喜んで御招待の園遊會に出席可致候」と云ふので後者は「前約有之乍残念御招待に應ずるを得ず」と云ふのであつた、太郎の譯文を添へて次に此兩書を掲載することゝする。

Mr. Sweet よりの返書

Mr. and Mrs. Sweet have much pleasure in accepting Mr. and Mrs. Miyaoka's kind invitation to their garden party for Sunday at 1 p. m.

同上譯文

拜復、來る日曜日午後一時御親切にも園遊會に御招待被下難有奉存候、仰せに従ひ同日出席仕るべく候

そこで Captain James の方の斷り文は次の如くである。

Captain and Mrs. James very much regret that the previous engagement prevents them from having the pleasure of attending Mr. and Mrs. Miyaoka's garden party for Sunday next.

同上譯文

拜復、小生等前約有之乍残念來る日曜日の貴殿園遊會に出席致兼候間此段御通知申上候

(VI)

太郎の親友中村が先日來た時、太郎は中村に英語研究社發行の「英文小説講義」を示しこれは英學生の是非一讀し置かねばならぬものであると教へて置いたところ程なく中村から英文で借用申込の手紙が來た、それは次の如くであつた。

My Dear Friend,—When I called on you the other day, you showed me Mr. Imai's "Hints on Novel Reading." As I wish to read it now, will you be so kind as to let me have it for a few days?

Yours ever,
Jiro Nakamura.

(同上譯文)

拜啓、先日御尋ね申しました砌拜見仕候今井氏「英文小説講義」一讀致度と存候何卒數日間御貸與下され間敷や先は御依頼まで

そこで太郎の書いた以上の返事の和文の文案は次の如くである。

拜啓、過日お目につけ候書物御一讀御希望の由御安き御用に有之候、只今小包にて御届け申上候 草々

過日お目にかへ候書物 = the book I showed you the other day——御一讀御希望の由 = so you wish to read——御安き御用に有之候 = I am quite willing to lend. 小包にて = by parcels post. 例に依つて (A) は直譯 (B) は意譯である。

(A)

Dear friend,—So you wish to read the book I showed you the other day. I am quite willing to lend you it. I am now sending it by parcels post.

Your friend,
Taro Hinode.

(B)

Dear Nakamura,—You are quite welcome to the volume you express a wish to read. I am now sending it to you by parcels post.

(VII)

中村からいつまで経つても「英文小説講義」が返つて來ない貸は太郎も一番面白い最後の一章を残して中村に貸してやつたのである、デ幸ひ閑を得て之を讀みたいと思ふ今日此頃貸してから三月も経つにまだ返さぬとは何事、一ツ英文で催促をやらうと認めたのは次の催促文である。

前略、先日御貸し申上げました今井氏著書中に一寸見たいところが出來ましたので御返却下さいませんか明きますればすぐ又御返し致します

先日御貸し申上げました = which I lent you the other day.——今井氏著書 = Mr. Imai's book. 一寸見たいところが出來 = I have something to look up in it. 明きましたらすぐ = as soon as I have done with it.

過日お目につけ候書物 = the book I showed you the other day—御一讀御希望の由 = so you wish to read—御安き御用に有之候 = I am quite willing to lend. 小包にて = by parcels post. 例に依つて (A) は直譯 (B) は意譯である。

(A)

Dear friend,—So you wish to read the book I showed you the other day. I am quite willing to lend you it. I am now sending it by parcels post.

Your friend,
Taro Hinode.

(B)

Dear Nakamura,—You are quite welcome to the volume you express a wish to read. I am now sending it to you by parcels post.

(VII)

中村からいつまで経つても「英文小説講義」が返つて来ない實は太郎も一番面白い最後の一章を残して中村に貸してやつたのである、デ幸ひ閑を得て之を讀みたいと思ふ今日此頃貸してから三月も経つにまだ返さぬとは何事、一つ英文で催促をやらうと認めたのは次の催促文である。

前略、先日御貸し申上げました今井氏著書中に一寸見たいところが出来ましたので御返却下さいませんか明きますればすぐ又御返し致します

先日御貸し申上げました = which I lent you the other day.—今井氏著書 = Mr. Imai's book. 一寸見たいところが出来 = I have something to look up in it. 明きましたらすぐ = as soon as I have done with it.

(A)

Dear friend,—Will you please return me Mr. Imai's book I lent you the other day as I have something to look up in it? I will send it back to you as soon as I have done with it.

Yours ever,
Taro.

(B)

Dear Nakamura,—Will you please let me have the book I lent you the other day, as I have something to refer to in it? I will send it back to you as soon as I have finished it.

Yours ever,
Taro Hinode.

(VIII)

これはまた近頃迷惑な事件が持上つた、それは太郎の阿母さんの昔のクラスメートで明智直子嬢と云ふのがある、目白卒業後越後の去る高等女學校に教鞭をとつて居たがそれも一二年でやめて再び上京後は諸方の家庭教師などをつとめて居たが今度京都市の助役を勤めて居る叔父さんから是非京都へ來いと云ふ、叔父さんの意では明智嬢も最早婚期を過した姥櫻ながら It is not good for *woman* to be alone! とあつて然るべき良縁をかの地て求めらるゝ手筈だと云ふ、併し飽迄獨立の氣象の勝つた明智嬢は先頃太郎の母を訪ねて京都へ行つたのちで然るべき所へ就職したいから紹介狀を呉れろと云ふ、そこで太郎の父の友人で第三高等學校の head teacher たる木下徳太郎先生へ太郎が母の名前で英文の紹介狀を認めた。

一筆染し申上候、此狀持參の明智直
子様は女子大學出身にて妾の級友の
一人に有之候、今回御地に參り何か
就職口を得度き御希望に有之候、何
卒御力添の程偏へに奉願上候

日出淑子

木下先生

英語の手紙には男の手紙だつて女の手紙だ
つて區別のあるものぢやアない、「一筆染し
申上候」や「文して申入候」もへつたくれ
もあるものぢやアない、——「此狀持參者」
=the bearer of this letter——「女子大學出
身」=a graduate of the Girls' University——
「級友の人」=a classmate of mine 又は one
of my classmates——「何か就職致度希望」
=desirous of finding employment. 「何卒
御力添の程偏へに奉願上候」=Kindly
render her any aid you can.

(A)

Professor Kinoshita,—The bearer
of this letter, Miss Naoko Akechi, is
an old friend of mine and is a gradu-
ate of the Girls' University, where
she was one of my classmates. She is
desirous of finding employment in
your city, so kindly render her any
aid you can.

Yours sincerely,

Yoshi Hinode.

(B)

Dear Professor,—Permit me to in-
troduce to you Miss Naoko Akechi
who is desirous of finding employ-
ment in your city. She is a gradu-
ates of the Girls' University where
she was in the same class as I. Any
favor you may show her will be
really appreciated by

Your sincere friend,

Yoshi Hinode.

それから二三日経つて明智嬢から安着の手紙が来て其端には明日木下先生を尋ねるとある、其後又二三週間経て明智嬢より筆蹟も見事な次の如き英文の手紙が来た、見れば遂に同地舞鶴高等女學校に英語教師となつたのだと云ふ、「知らず彼女の結婚問題や如何？」と太郎が歎息すると阿ツ母さんが「そんな餘計な人様のお世話を焼かずに明智さんの手紙の翻譯でもして御覽」と云はれて次の如く英和對照のものが出来上つた。

Ichijodori
Muromachi,
Kyoto, Japan,
Oct. 20, 1913.

Mrs. Hinode,
Tokyo, Japan.

Dear Madam:

Through the help of Prof. Kinoshita, I have at last succeeded in getting a position as teacher of English in the Maidzuru Girl's High School of Kyoto.

I am very pleasantly situated at Miss Katayama's, and my hours are

short and all come during the forenoon, so that my afternoons are free to study out if I choose. All that you have done for me I have greatly appreciated and hope to sometimes be able to requite your kindness. I shall put my best into my work here and try and make it a success.

Thanking you again,

I remain,

Most sincerely yours,

Naoko Akechi.

同上譯文

一筆染し參らせ候、扱妾事木下先生の御助力にて首尾能く舞鶴高等女學校に英語教師の地位を得申候、目下片山嬢方に寄寓、學校時間は短くそれに大抵午前中の授業故午後からは外に研究に行けば行かるゝ位に有之候、是れまでの御力添は何とも御禮の申やうもなくいつか御恩報じも致度と存候、とにかく本校の教授には一意専心力を盡し成功致度と存候先は御禮まで あらあらかしこ

明智直子

日出令夫人様

(IX)

The unexpected always happen! 事は意外の邊に起るとはよくも云つたりな、獨身主義の明智嬢も叔父さんの persuasion に遂に我を折つたと見えて矢張り木下教授の媒介で京都府立第五中學校の英語主任藤田秀男氏と云ふ京大出の法學士と華燭の典を擧げると云ふ事を今度は明智嬢得意の英文でなくどういふわけか和文で太郎の母へ申送つて來た、太郎が母から命ぜられて書いた結婚祝賀の手紙は次の如くてある。

御玉章拜見仕候、此度木下先生の御媒介にて藤田法學士と御結婚の由お目出度き事に有之候不取敢御祝までかしこ

「御玉章」=your letter——「木下先生の御媒介にて」=through the kind offices of Prof.

Kinoshita. 不取敢御祝まで=let me congratulate you.

Dear Miss Akechi,—Your kind letter has just reached me and I write at once to express my heartfelt congratulations on the auspicious event.

(X)

年月の經つのは早いもの明智嬢の結婚の披露が正式にあつてから最早一年餘、明智嬢の良人たる藤田法學士から次のやうな手紙が來た。

Dear Mrs. Hinode,—My wife gave birth to a boy last night at 8 o'clock and I am happy to say that both mother and child are doing exceedingly well.

Yours truly,
H. Fujita.

以上を太郎が次のやうに和譯した。

拜啓、荆妻昨夜八時男子分娩母子共
頗る健全に罷在候間乍憚御安意下さ
れ度候

尙ほ太郎が母に代つて先方へ送つた出産祝賀
の英文手紙は次の如くであつた。

Dear Mr. Fujita,—I learn with
much pleasure that Mrs. Fujita gave
birth to a boy. I can well imagine
how delighted you and your family
are and I am sure that the boy will
one day add to the reputation of
your family.

Yours sincerely,
Yoshi Hinode.

同上譯文

一筆染し参らせ候、奥様には御安産
にて御男兒御出産の由御喜び申上候
尙貴方様始め皆々様の御喜もさこそ
と御察し申候、御出生の御子様は他
日御家名を擧ぐることに存候、先は御
祝ひまで

日出淑子

藤田秀男様

(XI)

三年経てば三つになる、明智嬢が獨身主義を
放棄して遂に子供が出来るまで太郎は中學校の
生徒では居ない、太郎は帝大法科を優等で卒業
して畏くも、聖上陛下から恩賜の時計まで拜領
した、そして太郎が或る銀行に雇入れらるゝに
際し差出した履歷書の翻譯は左の如くである。

履 歷 書

東京市神田區錦町一丁目三番地

俊之長男 日出太郎

明治二十五年生

本籍、福島縣平町字古鍛冶町

現住所、東京市神田區錦町一丁目
三番地

學 業

- 一、明治三十七年四月福島縣平町高
等小學校卒業
- 二、明治四十二年東京府立第三中學校
卒業
- 三、同年七月第一高等學校入學

四、明治四十四年東京帝國大學英法
科入學

五、明治四十七年同科卒業

年 月 日

右

日出太郎

同上譯文

Personal History.

Taro Hinode.

Eldest son of Toshiyuki
Hinode.

Born in the 25th year
of Meiji.

Permanent address

Furukajicho, Taira-machi.
Fukushima-ken.

Present address

No. 3, 1-chome Nishikicho,
Kanda, Tokyo.

Course of Studies.

In April in the 37th year of Meiji,
graduated from the Higher Prima-
ry School, Taira-machi, in Fuku-
shima-ken.

In April in the 42nd year of Meiji
graduated from the First Middle
School, Tokyo-fu.

In July in the same year, entered the
First High School.

In the 44th year of Meiji entered the
Law College of the Tokyo Imperi-
al University.

In the 47th year of Meiji graduated
from the same with honours.

(Date) Taro Hinode.



附 録

リーダーの手紙

[次にナショナル、チョイス、ドリル、鹽谷、ステップ等の各リーダーより手紙の章を抜き取りて譯註を附せり、英語の手紙を學ぶ諸氏の参考にもがなと]

I.

New York City,
Jan. 1st, 1884.

Dear Mary,—

Mamma is not at home, and I can not find our dictionary.¹ I have to answer this question, "What is bamboo?"

John says it is a kind of beast like an ape.

Tom says it is a kind of spear.

I say it is the name of some black men who live in India.

Now I am sure³ you can tell me⁴ about it, and I should like very much to show Tom and John how little they know.⁵

Was not the man who wore⁶ the turban⁷ a bamboo?

【註】 1. 「一寸お尋ね致したいですが」原文になけれど補つて見る。 2. bamboo は「竹」の意なれど譯語を附して此手紙の滑稽が没せられて了ふ、否此手紙の主旨が無意味になつて了ふそれで譯文には其儘 bamboo とせり、猶ほ此手紙の返事と對照して見るべし。 3. I am sure. 確かに……と思ひます。 4. You can tell me about it は you know about it と見ても差支なし。 5. I should like ...how little they know. Tom や John が知

第 一

一寸御尋ね致したいので御座います、母ア様にはお留守ですし又字引を探しても見當りません、それで“bamboo”とは何かと云ふ問題に答を出さなければならぬのでこまつて居るので御座います。

ジョンさんはそりや猿に似た獸の一種だと申しますし、

トムさんは槍の一種だと申しますが、

妾は印度に居る黒ン坊の名だと申しました。

兎に角あなたなら屹度よく御存の事と思ひます、そして妾はトムさんとジョンさんにそれどうですかと云つて降參さしてやりたいのです。

bamboo と云ふのは頭布を冠つた人の事てせう？ ネエ？

つた風をして居るが、自分の思つたのが違はなかつたと云ふ、Mary の返事を受けて、彼等を閉口さしてやらうと思ひしなり how little they know は「彼等は少しも知らん」の意味にして、彼等の云つた事はサツパリ當つて居らん事を云ふ、即ち「彼等の云つた事が違つて居る事を見せつけて (to show) やりたい」の意。 6. wore は wear の過去の形にして「身に着ける」の意。 7. turban は土耳其人の冠ぶる頭布。 8. Am I not right? 「私

The boys are laughing at me, but am I not right?^{8?}

Your cousin,

Nellie.

New National Third Reader. (P. 147)

II.

Boston, Mass.,

Jan. 4th, 1884.

Dear Nellie,—

When I read your letter, I laughed so loud that¹ the cat jumped off² my knee, and ran away in a great-fright.³

Bamboo is a kind of grass, or reed, or cane,⁴ which grows in India or China, and is used for building houses, and for many other purposes.⁵

Did you never see a bamboo cane?

の云ふ事は正しくはないのか、「大丈夫違つては居りませうまい」の意、此言方に於ける「私」に非らず「私の云ふ事」なり。

{Is he *right*? 彼の云ふ事は正しいか

{No, he is *wrong*. イヤ、間違つて居る

【註】 1. laughed so loud that..... 大變聲高く笑つたものだ

トムさんとジョンさんは今妾の事を笑つて居るのです、いくら笑つても妾の申す事は違つて居りませんでせう。

ネリより

メリー様
御許へ

第二

妾があなたの御手紙を見て、思はず大きい聲を出して笑つたので、膝に居つた猫がヒドク驚いて膝から飛び退いて逃げて行つて終ひました。

bambooとは一種の草であります、そして印度や支那に産して家を作る材料に用ひたり又いろいろの用途(ツカヒミチ)があるのです。

あなたはまだ竹を御覧にならないのですか。

から...。 2. jumped off my knee. 私の膝から飛び退いた。 3. in a great fright. 非常に驚いて。 4. reed は葦、cane は粟、玉蜀黍、砂糖等の莖を云ふ、竹は樹(tree)でないが、さりとして草でもない、乃至は同上の莖のやうなものでもない、それで、grass の reed の cane の一種と斷言し得ぬ所なり。 5. is used for many other purposes. 澤山の外の目的の爲めに使用さる「即ち、

John was thinking of⁶ a baboon.⁷ That is an animal like an ape. The kind of spear was a harpoon. The man with the turban was a Hindoo, and not a bamboo.

He would have laughed⁸ very much if you had asked him what you have asked me. But never mind, dear, all of us must learn.⁹

Your cousin,

Mary.

New National Third Reader. (P. 148)

III.

York Beach,

July 3, 1911.

Dear Frank:—

Here I am at the sea-shore for the first time.¹

「いろいろの物を作る」の意なり。6. think of 思ひつく。7. baboon, harpoon, Hindooと皆發音の似て非なる處に思ひ違ひをして居つた滑稽なり。8. He would have.....asked me. 爰は事實の反對の想像を云つたもので、would have laughed..... if you had asked him 等を用ひたるを注意せよ、[妾に尋ねたのだからよかつたけれど印度人にでもそんな馬鹿なと尋ねたら、さぞ笑ふ事だらう]との意。9. all of us must learn [吾等凡ては學ばねばならぬ]とば知らん事を人に尋ねて笑はれるが恥か

ジョンさんは baboon (狒々)と思ひ違つたのです。狒々とは成程猿と似た動物です。一種の槍とは harpoon (鉤)であります。又頭布を冠つた人とは Hindoo (印度人)の事で bamboo と違ふのです。

若しあなたが妾に問ふたやうな事を Hindoo に尋ねたなら、どんなに笑つた事でありませう。けれどもそんなとはどうでもよろしい、ネリさん、お互に聞かねば解らぬ事はありますよ。

サヨナラ

メリーより

ネリさま
おるる

第三

拜啓 僕の海岸へ来たのは此度が始めてです。

しいやうでは物を覺えることが出来ない、「そんなとに頓着せず、知らん事はどん々々尋ねて覺なければなりません」の意なり。

【註】 1. For the first-time. 始めて、

Have you come to Tokyo for the first time?

比較 君は始めて東京へ来たのか

I went to Ueno first and then to Asakusa.

私は始め上野へ行つてそれから淺草へ行つた

We all like it very much, but it is strange to see so much water,² for at home we have only the duck-pond.

Here we play on the beach all day long,³ and dig in the sand.

Then we watch the waves come in, and just as the water gets near our feet, we run back as fast as we can.

We sit on the sand, too, and watch the boats that are so far out at sea, that⁴ they look like toy-boats.

Once or twice a day I go bathing⁵ in the sea. Almost every time I do so, I get my mouth full of the sea-water.⁶ So I know how it tastes. It does not taste well at all.⁷ We often go about the beach to look for⁸ pretty shells. This morning I wrote my name in the sand with

2. to see so much water = 「水又水の廣漠たる大海原を見て」。
3. all day long. 「一日中」「終日」all the year round (一年中) など共に記憶すべし。
4. the boats that are so far out at sea that they look like toy-boats. 「大層遠い沖合を航行して居るから玩弄物の舟のやうに見える舟、」so far...that...「大變遠いから...のやうである」、at sea. 「航行中」「航海中」、look like...を見たやう、例— The whale looks like a fish. 「鯨は魚見たやうだ」。
5. go bathing

みんなも海岸は大好きですか、水が斯うも澤山あるのかと思ふと妙な感がいたします、家に居ればお庭の池が關の山ですもの。

朝から晩まで濱で遊んで砂を堀つたりなどして居ります。

それから浪が寄せて來るのを見たりして居ますが、其の浪が足の近くまで來ると一生懸命で逃げ出します。

又砂に坐つて沖を走つてゐる舟などを見ますが、大變遠いので丸で玩弄物の舟見たやうに見えます。

一日に二三度海へ這入つて泳ぎます。その度に鹽水をガブリとやります、ですから其味はよく知つて居ります、ちいッともいいものぢやありませんよ、時々は濱を歩き廻つて美しい貝殻を探す事もあます、今朝も貝で砂の上に名前を書きましたが、おきに浪が來て洗ひ流して終ひました。

泳ぎに行く、(類例—I went fishing yesterday 僕は昨日魚釣に行つた。) 6. I get my mouth full of the sea-water. 「鹽水で口が一杯になる」、ネッドさん餘り泳が上手でないで思はずガブリとやるものらしい。7. at all は打消を強める詞にて爰では not を強めたるなり。8. to look for. 探がす、[見る] は to look である、かく前置詞に依つて其意味を異にする處を注意すべ

one of them,⁹ but soon the waves washed it away.

Now, you must write to me,¹⁰ and let me know how you pass your time.¹¹

Tell Aunt Ann to write too.

Your little friend,
Ned.

—Standard Choice Readers, No. 2. (P. 40)

IV.

Upper Park School,
Sept. 12th, 1911.

My Dear Frank,

Here I am at school as my father has long desired, and as I have long dreaded.¹

I can assure you² I did not at all like the ceremony of introduction, and felt my heart sink³ when my father consigned me to the

し。 9. one of them. 探がして見附けた具の一つ。 10. 「手紙を贈る」を to send a letter to..... とは云はずして to write to..... と云ふ。 11. how you pass your time. [如何御暮し被遊候哉] の意。

* * * *

今度は是非御手紙を下さい、そしてどうして
おいてになるか知らして下さい。伯母さんにも
手紙を下さるやうに申上げて下さい。

サヨナラ

ネット

フランク君

第四

拜啓 僕はいよ々々學校に這入りました、これ
は僕の父が長い間願つて居つた事で、又僕は長
い間氣を揉んで居つた事なのです。

(入學の時の)紹介の儀式のいやで仕様がなか
つた事と、父が僕を先生へ預けて家へ歸つた時
の悲しさと云つたら實に堪りませんでした、け
れども先生が運動場(と云ふのは僕の行つた時

【註】 1. as I have long dreaded. 「永い間心配して居つた通り」、dreaded は feared にして、あの學校へ行つたらどうだらうなどと氣になつて居つた事。 2. I can assure you. [請合ふ]、[保證する]などの意にして、次に來る文意を強むる爲めに用ふ、譯語を附して却て面白くなし。 3. felt my heart sink. 「心が沈

master's care,⁴ and took his departure homeward. But the master then recommended me to the acquaintance⁵ of one of the boys on the play-ground (for the boys were all at play when I arrived), and I was in a few minutes much relieved by the kindness of the boys' manner, and by the general appearance of cheerfulness which prevailed throughout the school⁶.

I must say that I think I shall like this school very well, although the discipline⁷ is stricter than that⁸ of the day-school I formerly attended. I have no doubt that our master is as kind as he ought to be,⁹ if he were more indulgent to us, it might not be for our good; so I mean to do all I can to acquire good habits and useful knowledge and to show gratitude and give satisfaction¹⁰ to my parents and teachers.

むやうな気がした] 即ち、[情なく心寂しくなつた] の意なり。
4. consigned me to the master's care. [先生の注意に私を任せ
た]、父が宜敷御願ひ申すと云つて先生にハリーを預けたるな
り。5. recommend me to the acquaintance of one of the boys.
運動場に居つた一人の生徒に對し此ハリーをお友達してやつて
呉れと先生が頼んだ事なり。6. the general appearance.....
the school. [學校内に居る誰の顔にも容ちにも表はれて居る元
氣] の意。7. discipline. [學校に於ける訓練]、即ち、「規律」。

生徒がみんな遊んで居てをりました) に居つた一人の生徒に頼んで相手になつて呉れたがその生徒の親切なのや學校中のどの生徒もどの生徒も元氣らしいのを見て悲しかつたのも忽ちに直りました。

今度の學校は前の學校よりも規律が八ヶ間敷いけれど大變居心地がよいのです、先生もかなり親切な方であります、若し先生がこれ以上やさしかつたら僕等の爲めにはよくないです、ですから僕は出来るだけ勉強して良い習慣をつけ、必要な智識を得て、親や先生に恩返しをし悦ばせたいと思ふのです。

8. that (=the discipline) of the day school I formerly attended. 私が前に居つた學校の規律、但し「學校に出る」を to attend school と云ふ。a day school は寄宿舎を設けざる普通の學校なり。9. as kind as he ought to be. 「さうある可き程親切、それ以上は盡さぬ方がよい親切、適度の親切」。10. give satisfaction to my parents and teachers. 「両親や先生に満足を與へる、両親や先生を悦ばせる」。

I am sorry that I forgot to put my drawing-book in my box, when I was leaving home. Will you be kind enough to bring it with you when you come to see me on Saturday? I am so glad you are coming.

I remain,

My dear Frank,

Your affectionate Brother,

Harry.

—*The Third Step in English.* (P. 63)

V.

Kanda, Tokyo.

Oct., 15th, 1911.

My dear Mother,

This morning at school¹ we read about George Washington and his new hatchet.² The story has deeply moved me,³ and made me remember a very bad thing that I had done to you.

【註】 1. at school. 「稽古中」の意。 2. George Washington and his new hatchet. 是れは讀者既に知れる事ならんも指摘んで申せば、ワシントンが小供の時斧を買つて貰ひ嬉しさの餘り見當り次第に木を切り倒して歩いて居る中、父が大切に栽培して居る櫻樹をもそれとは知らず切つて終つた。後父が是れを見

僕は家を出る時圖畫の本を行李に入れて來るのを忘れました。土曜日に面會に來らるゝとき何卒持つて來て下さい。御出になるのを悦んで待つて居ります。

ハリーより

フランク様

第五

拜啓 私事本朝學校にて「ヂョージ、ワシントンと持馴れぬ斧」の話を讀み大に感心致し候それのみならず、私が母上様に對し甚だ申譯なき事致したる事をも想ひ出し申候。

て大に怒り誰が爲したかと家中の者を呼び出したが、ワシントンは此事を聞き、私でありましたと正直に父に詫びたので父は大に悦んだとの有名な話であります。 3. 「此話が大に私を感動させた」は、即ち「此話によりて私は大に感動した」の意。如此言方は英語の慣用法なり。 13. deeply = very much. 4. You

In your last letter you asked me if⁴ I did not at times take too much exercise and neglect my lessons. I replied that I did not, but I now find that it was not the truth; for I remember that three afternoons⁵ during the week before last, I played ball much longer than I meant to,⁶ so that in the evening I felt too sleepy⁷ to study, and had to go⁸ to school the next morning without good preparation.

At the time I wrote the letter, I did not remember this,⁹ so I can honestly say that I did not mean to deceive you, but all the same¹⁰ I am sorry that I have told you what was not true. Pray, dear mother, forgive me this time. I shall try to be a better boy;¹¹ indeed, I mean to be as good as¹² George Washington.

asked me if I did not..... my lessons は you asked me, "Don't you at times take too much exercise and neglect your lessons?" と直して見れば分り易からん。at times = often. 5. three afternoons during the weeks before last. 前々週の例へば火曜と木曜と金曜の午後三度。6. I meant to. 「思ふた、積りであつた」 meant は mean の過去の形。7. I was too sleepy to study = I was so sleepy that I could not study. 「餘り眠くて勉強が出来なかつた」。

此前の御手紙にて、私事運動に時間を浪費して學業を怠る事間々あるにあらずやとの御尋ね有之候ひしが、私事は左様なる事は決して無之旨御返事申上候、然るに其偽りなりし事今日に至りて始めて相分り申候、そは、前々週中三日の午後思ひしより長時間ベースボールを致したる爲め夜に至りて眠氣甚だしく勉強致し兼ね、翌朝は止むを得ず充分の準備致さずして登校致し候。

御返事致せし際は、私事此事を忘れ居りてあのやうに申上げたる次第にて候故母上様をお欺き申す考は少しも無之候、然れども（假令欺く積りにあらずと致しても）偽りを申上候事は實に御申譯無之候、何卒此度丈けは御許し被下度願上候、今後決して如斯事は致さざる可く、否、デヨーチ、ワシントンにも劣らぬやう心がけ可申候。

8. Had to go, had to は must の過去の形。9. I did not remember this. の this は ベースボールをして時間を思つたより餘計に費した事を云ふ。10. all the same 「どちらの途」 11. a good boy は「虚言を云はず、従順にして、言行の立派な兒」の意なれば、爰にて a better boy と云ひたるは「是れからはワシントンにも劣らぬ程虚言は云はず、勉強する」の意なり。12. as as any は「.....にも劣らず.....」の意。13. I shall not

Please write me as soon as you can. I shall not be happy till I hear that you have forgiven me.¹³

I am,
Your repentant son,
Taro.

—New English Drill Books, No. 3. (P. 45)

VI.

My dear Jenny,

I am sure¹ that you will like a letter, all for your dear self.² A little girls, and big ones³ too, love to have letters.⁴

Well now, what shall I write about? I think you would like to hear how we spent May Day⁵ in our village.

Yesterday was May Day, the birthday of summer. We had some very fine days during last month, but summer really and truly began yesterday.

be..... forgiven me. 「許すとあなたの御手紙のあるまでは私は心持が悪いのであります」即ち、「許すと一筆頂戴して始めて安心致します」の意。

【註】 1. I am sure 私は確かに.....と思ふ。 2. you will

何卒至急御返事被下、許すと一と筆賜はり度其時始めて安心可致候、先づは右御詫びまで

太郎

母上様

第六

一筆染し上げまゐらせ候、なべて年ゆかぬ女子、否、年多きものとても人様より自分宛の玉章よせらるゝを嬉う思ふものに候へば、お前様とても妾よりのおとづれ、こよなう悦ばせらるゝことと存じ候。

左様申したりとて何を申上ぐべく候哉、別に是と申す事も無之候へども、妾供の村の五月祭の有様お慰みまでに申上ばやと存じ候。

昨日は此五月祭にて、即ち夏の始めに御座候、先月中は日和續きには候へしかど、誠の夏は昨日より始まりたるものに候。

like a letter all for your dear self. 自分宛の手紙の来るのを非常に悦ぶ。 all for your dear self. は「他人の手紙と同封でなく全然自分宛で来たもの」の意。 3. ones=girls. 4. to have letters 手紙が来る。 5. 此一節原文を其まゝ譯しては日本文として少しく穩當を缺くやうに思はれたれば、前後轉換し

Well, yesterday we had a merry-making⁶ because we were all so glad that summer had come round again.⁷ The day was warm and sunny, and we were all very, very gay⁸.

The school girls were dressed in white,⁹ and carried posies in their hands; the boys had bunches of ribbons pinned¹⁰ to their caps and coats.

One May Morning we met in the school-room, and the sweetest little girl of all was chosen to our May Queen.¹¹ We put a crown of roses on her head, gave her a white staff to hold in her hand.

Then the Queen took her place in a little carriage covered with flowers, and the boys drew her to the village green.¹² Behind her came the girls, two and two.¹³

たれば、其積りにて讀まれたし。6. May Day. 五月一日にして此日英國の田舎にて May Queen (五月妃) とて少女を花冠にて飾り、May pole (五月柱) と稱する花や紐にて縛りたる柱を取巻いて踊る、今は餘程の片田舎に非らざれば行はれず、故に此手紙は都に在る姫に其様を知らせたるなり。7. 譯文の [左様申したりとて] や [別に是と申す事も有之候へとも] は、意味を補ひたるものにて、是れに相當する英語

扱て、村人の夏祭は詰り昨日行はれ申候、温なる上に空もうらゝかなる好天氣なりし故一同こよなき一日の樂しみ致し候。

女生徒だけは白服召して花束を手にし男生徒達は結びリボンを帽子や上着に着け申し候。

朝、みな學校に集まり、其中一番綺麗な女生徒を五月妃に選び、薔薇の冠を着けさせ、手には白の笏を持たせ申候。

五月妃花にて裝飾せる御車に座を構ふれば、男生徒は此御車を曳き、女生徒は二人宛後につゝきて草原に参り候。

草原に参ればみな五月柱の周りに集り申候、柱の先きには大花束有之、これより五色のリボンが幾筋も幾筋も下がり居り申候。

は無論なし。8. a merry-making. [愉快に遊ぶと] (多くは酒を飲みて)。9. summer had come round again. 「夏が再び廻り來た、」譯文には意譯せり。10. Gay 「楽しい、愉快なる」。11. Dressed in white. 白い衣服を着る。12. had bunches of ribbons pinned to their caps and coats. 結びリボンを彼等の帽子や上着に着けた。to pin は「ピンで止める」の意。13. 5 を見よ。14. Green 「草原」にして、多くは村の共有地なり。15. two

When we got to the green, we all gathered round the May pole.¹⁴ At the top of it there was a great bunch of flowers, and hanging down from it were ribbons of all colours.

Then a band began to play, and each child took hold of¹⁵ a ribbon and danced round the May pole.

When that was over there were sports of all kinds on the village green.

At four o'clock we all went back to the school-room for tea.¹⁶

Now I must bring my long letter to an end.¹⁹ Perhaps next May Day mother will let you come and take part¹⁷ in our games.¹⁸ Give my best love to all.

I remain, My dear Jenny,
Your loving auntie,
Mary.

—The Third Step in English. (P. 24)

and two.「二人宛」。16. 5を見よ。17. to take hold of....おさへる、とりつく。18. tea は「昼食と夜食との間に一寸茶を飲み菓子などを食しての休息」。19. to bring to an end. 終る。
20. take part in. 「仲間に入る、参加する」 類例—The

樂隊吹奏を始むれば女生徒も男生徒もみなこのリボンを手にして五月柱をめぐるめぐりて舞踏するものに候。

これを済ませば又いろいろの遊戯をば此草原にて致し候。

四時に相成候へば一同教場に戻りて一と休み致し候。

あまり永く相成候故此邊にて筆止め申候、來年の五月祭には母上様の御許しを受け御出て被下、此遊戯のお仲間入りは如何に候哉、何卒皆様によろしく。

メリーより

ゼニ様

まゐる

Kasagi took part in the Battle of the Japan Sea. 笠置は日本海海戦に参加せり。21. Perhaps next May....in our games. 「來年の五月祭には母上様が屹度あなたをこちらへよこして遊戯に仲間入りをさせて下さるでせう」。譯文は意譯せり。

本叢書第二篇豫告

(四月上旬刊行)

太郎の英文法

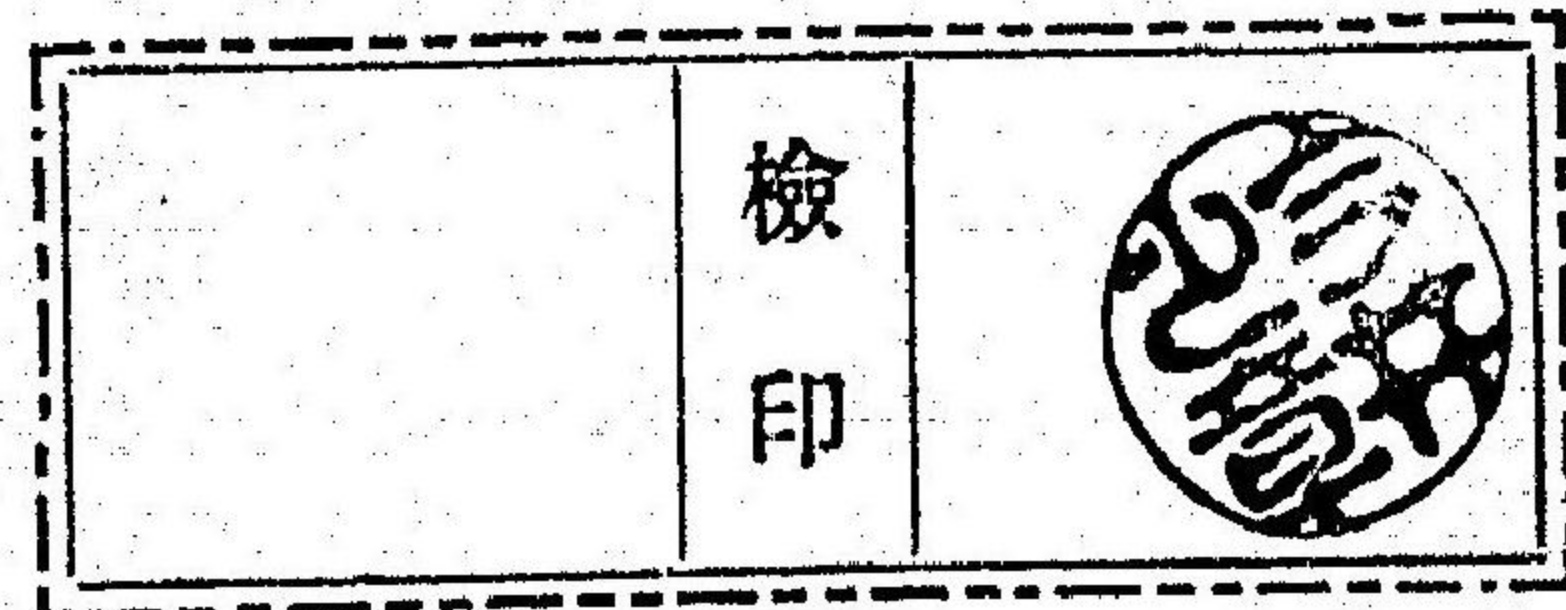
西洋で刊行された本に“Grammar without Tears”(涙無しの文典)といふのがあ
 る。これは初學者が英文法を習ふ時に涙を
 流さず済むやう面白く書いたと云ふのでか
 る標題を付せられたのであるがこれを
 見るに英語の文法の如何に難解なるかと解
 る、ところが今度出る「太郎の英文法」は
 “Grammar without Tears”をモウ一つ上
 手に行つた“Grammar with a Smile”「微
 笑しながらの英文法研究」なのである、お馴
 染の日出太郎が英文法の初歩を研究すると
 云ふ物語に仕組んだもので初學者の見逃す
 べからざる書物である。

太郎の英語研究叢書 第一編

太郎の英語の手紙

明治四十五年二月五日印刷 ● 明治四十五年二月八日發行

不許翻刻 * 不許漢譯



著 作 者 今 井 信 之
 發 行 者 東京市麹町區富士見町六丁目十番地 小 酒 井 五 一 郎
 印 刷 者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 飯 田 三 千 太 郎
 印 刷 所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 株式會社 秀 英 舍 第 一 工 場

發 行 所

東京市麹町區富士見町六丁目十番地

英 語 研 究 社

振替貯金口座東京一八二三六番

【定價金三拾五錢 郵稅四錢】

地方讀書家諸君に告ぐ

本社は地方讀書家諸君の便利を計り東京市内発行の書籍
雑誌に限り郵税を要せず定價金額丈御送付相成候へば迅
速叮嚀に取次の御需めに應じ可申候

一御注文書状には書名、發行所、代價等は階書にて明瞭に御認め被下度
候

一御注文書状到着三日間内に發送、返信等の處理を爲し且つ五十錢以上
の書籍には發送すると同時に發送通知書を發し可申候

一返信を要する御書面には返信料御添付被下度さなくば廻答不仕候

東京市麴町區富士見町六丁目
振替口座東京一八二二三六番

英語研究社